第2項　出生力

図2－1は，カブレパランチョーク郡とダヌーシャ郡についての年齢別出生率，すなわち，各年齢（5歳階級別）の女子について調査時以前1年間についての出生数の比率を示したものである。年齢別出生率の曲線は，開発途上国に特徴的なゆるやかな山型を示している。これは，高出生力の国にみられる特徴であり，出生力が特定の年齢に集中せず，広範囲に分布しているためである。とくに30歳以上の寄与率が高い点にその特徴がある。一般的に出生率が低下する場合，年齢別出生率の低下は，40歳代の高年齢層からはじまって，次第に低年齢層の出生力が低下していく。したがって，低出生力の国では，特定の年齢層にそのピークがきて，年齢層が高くなるに従って，急速にその比率が低下するというパターンとなる。図1に示した調査対象地域における両郡の特徴は，高出生力の諸国に特徴的なように特定の年齢層に集中せず，広範囲に高い出生率を示している。年齢別の出生率については，45－49歳年齢階級を除き，ダヌーシャ郡よりカブレパランチョーク郡の方が高い。

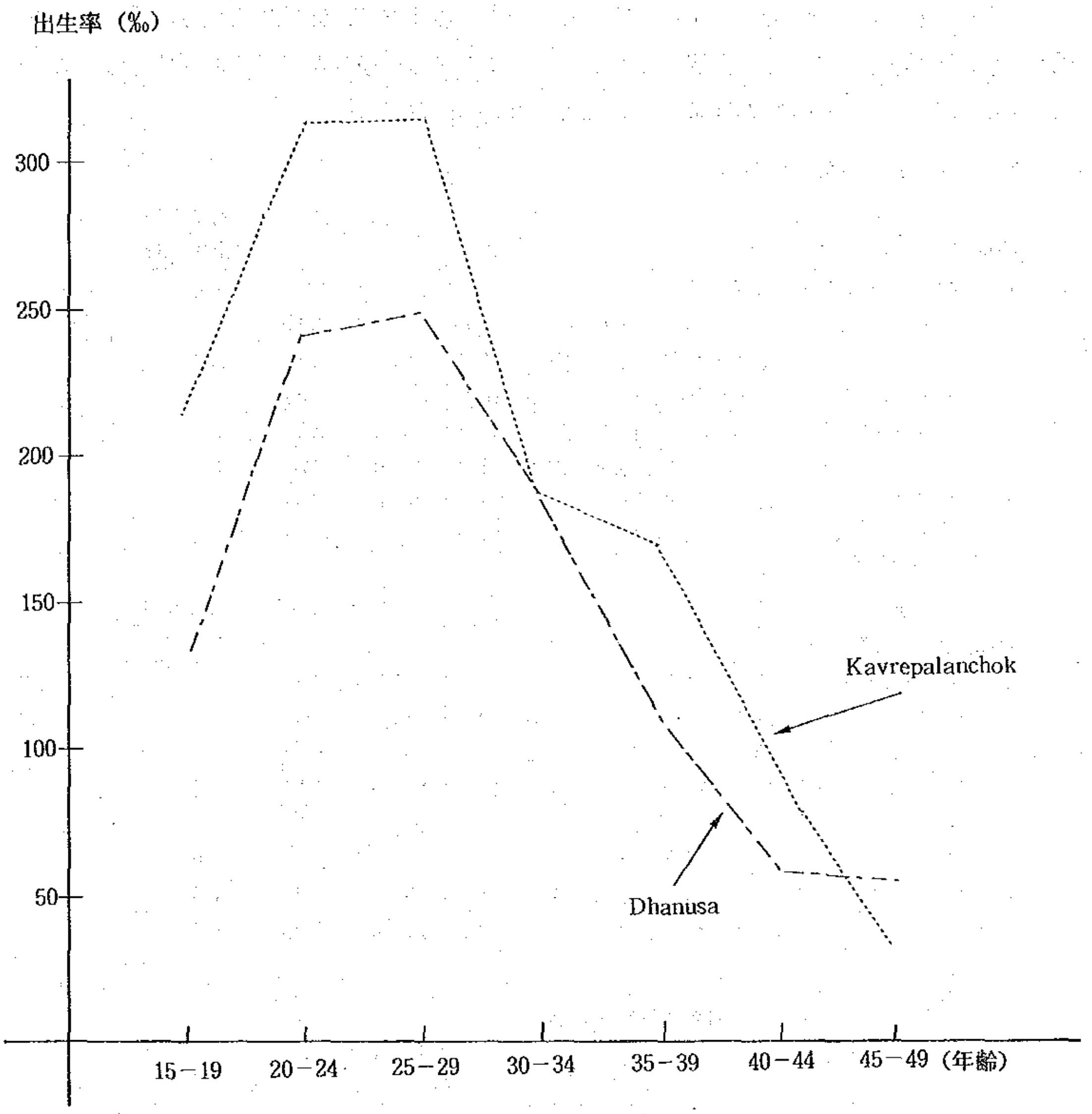
表4－2－4は，年齢別の既往出生児数についてその比率を示したものである。既往出生児数とは，あるコーホート（同時出生集団）が，これまでに産んだ子供数であり，コーホートの出生力を示している。高年齢になるほど子供の数の多い比率が高くなっている。既往出生児数についてみるかぎりにおいて，両郡の出生力は，ほぼ同水準であると考えられる。子供数は，カブレパランチョーク郡の場合，20歳代では2人，30歳代では3－4人と，その比率が高くなっている。ダヌーシャ郡の場合20歳代では1－2人，30歳代では3－4人である。さらに出生行動が完了する年齢層と考えられる45－49歳階級において，出生経験のない女子はきわめて少ない。

第3項　希望子供数

再生産女子人口の希望子供数について，教育水準別に示したのが，表4－2－5である。まず，理想子供数をみるとカブレパランチョーク郡においては，明らかに就学経験をもつ女子の方において，希望子供数は少ない。ダヌーシャ郡の場合も同様に，文盲女子と就学経験をもつ女子を比較した場合，理想子供数は前者において高い。表4－2－5では，また，教育水準別に現存子供数を示しているが，カブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡ともに逆の傾向がみられる。しかしながらこれについては，就学経験のある人口が低年齢層であり，まだ，出生行動を完結していないので，この点を考慮にいれると，子供数についての教育水準による差をみることはむずかしいと考えられる。

希望子供数の分布について，さらに年齢別にみたのが，表4－2－6である。年齢別希望子供数については，明らかに年齢別の差異がみられる。すなわち，高年齢層において，希望子供数が多いことである。低年齢層において，教育水準が高いこと，また後に考察する家族計画等の意識の問題，さらに，乳児死亡率低下についての認識ができたこと等がその理由と考えられる。カブレパランチョーク郡の場合，理想とする家族数は，3人であるが，その内訳は，息子2人とするもの69.4%，娘1人とするもの63.7%であり，男子2人，女子1人が希望子供数である。ダヌーシャ郡の場合，息子2人とするもの72.4%，娘1人とするもの73.9%であり，両郡ともに男子選

図4－2－1　年齢別出生率（カブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡）



好の傾向がみられる。

表4－2－7，表4－2－8は，こうした希望子供数を現在の息子の数ごとに希望追加子供数をみることにより，この傾向をさらに詳細に見たものである。カブレパランチョーク郡の場合，男子が2人いた場合，子供を希望しないとする比率は，90%以上に達している。ダヌーシャ郡の場合，子供を持つことに対する希望は，カブレパランチョーク郡のそれより高いように思われるが，すでに男子が3人いる場合，子供を希望しないとする比率は，95%に達している。ネパールでは，財産相続権が多くの場合，男子であること，また多くの儀礼が男子によって行われるという社会慣習によってこの傾向が顕著にみられると考えられる。

表4－2－4　年齢別既往出生児数

カブレパランチョーク郡　　%ただし（　）内は人口

年齢階級	0	1	2	3	4	5	6＋	計	平均出生児数
15～19	67.7	26.8	4.7	0.8	－	－	－	100.0（　127）	0.4
20～24	24.0	35.1	28.4	8.9	3.0	0.4	0.4	100.0（　271）	1.3
25～29	4.5	12.5	25.4	22.7	19.9	10.8	4.2	100.0（　287）	2.9
30～34	2.3	1.8	8.7	21.6	29.4	17.0	19.3	100.0（　218）	4.1
35～39	4.3	3.7	4.3	12.9	17.2	21.5	36.2	100.0（　163）	4.6
40～44	5.5	3.1	3.1	15.6	10.9	18.8	43.0	100.0（　128）	4.7
45～49	1.7	－	11.9	18.6	8.5	20.3	39.0	100.0（　59）	4.7
計	14.7	14.3	15.4	15.1	14.0	11.2	15.3	100.0（1,253）	3.0

ダヌーシャ郡　　%ただし（　）内は人口

年齢階級	0	1	2	3	4	5	6＋	計	平均出生児数
15～19	64.1	28.2	5.3	1.5	0.8	－	－	100.0（　131）	0.5
20～24	26.1	38.2	22.5	7.9	4.3	0.4	0.7	100.0（　280）	1.3
25～29	8.6	13.2	23.0	28.6	15.1	8.2	3.3	100.0（　304）	2.7
30～34	4.4	6.7	14.8	19.6	23.7	16.3	14.4	100.0（　270）	3.6
35～39	2.7	4.4	9.9	12.1	23.1	21.4	26.4	100.0（　182）	4.3
40～44	7.4	－	5.8	12.4	14.9	22.3	37.2	100.0（　121）	4.6
45～49	1.2	1.2	9.4	9.4	11.8	25.9	41.2	100.0（　85）	4.9
計	15.3	15.4	15.5	15.2	14.1	11.5	13.0	100.0（1,373）	3.0

表4－2－5　教育水準別子供数

（人）

	文　盲	識字／未就学	就　学
1. 計			
現存子供数	2.61	2.44	2.57
理想子供数	3.17	2.93	2.83
2. カブレパランチョーク郡			
現存子供数	2.90	2.35	2.68
理想子供数	3.07	2.94	2.72
3. ダヌーシャ郡			
現存子供数	2.35	2.67	2.92
理想子供数	3.27	2.45	2.95

表4－2－6　年齢別希望子供数分布

(%)

年　齢	0	1	2	3	4	5	6	7	平均子供数(人)
1. カブレパランチョーク郡									
15～19	0.8	1.6	35.9	41.4	14.8	3.9	1.6	－	2.9
20～24	－	1.5	32.0	48.3	16.4	1.5	0.4	－	2.9
25～29	0.3	1.7	31.9	43.4	17.7	3.5	1.4	－	2.9
30～34	0.4	0.4	23.2	39.0	30.7	4.4	1.3	0.4	3.2
35～39	－	0.5	30.1	34.7	25.9	4.7	3.1	1.0	3.2
40～44	1.1	1.1	22.4	40.8	28.7	2.3	2.3	1.1	3.2
45～49	1.1	－	18.4	35.6	35.6	5.7	2.3	1.1	3.4
2. ダヌーシャ郡									
15～19	3.1	0.8	9.3	65.1	20.2	0.8	0.8	－	3.0
20～24	－	0.4	13.4	64.6	17.7	2.5	0.4	1.1	3.1
25～29	0.3	2.0	9.4	56.5	26.4	4.0	0.7	0.7	3.2
30～34	0.7	1.8	9.1	49.8	31.6	5.5	1.5	－	3.3
35～39	－	0.5	9.2	57.9	25.6	6.2	0.5	－	3.3
40～44	2.9	－	4.3	56.4	27.1	7.1	0.7	1.4	3.4
45～49	－	2.3	5.3	36.6	19.1	33.6	3.1	－	3.9

表4－2－7　現存子供数(男子)別，性別，追加希望子供数－カブレパランチョーク郡

(%)

現存子供数	追加希望子供数(男子)					追加希望子供数(女子)				
(男子)	0	1	2	3	4＋	0	1	2	3	4＋
0	10.4	33.2	50.0	2.6	3.9	43.5	39.6	13.0	0.5	3.4
1	54.2	31.4	8.6	0.8	5.1	74.5	16.6	3.5	0.3	5.1
2	91.8	2.3	4.1	－	1.7	90.7	6.1	0.9	0.3	2.0
3	98.4	1.1	0.5	－	－	92.9	6.6	－	0.5	－
4	98.2	1.8	－	－	－	98.2	1.8	－	－	－
5＋	97.3	2.7	－	－	－	97.3	2.7	－	－	－
計	60.0	18.7	17.4	0.9	2.9	73.8	18.2	4.8	0.4	2.8

表4－2－8　現存子供数(男子)別，性別，追加希望子供数－ダヌーシャ郡

(%)

現存子供数	追加希望子供数(男子)					追加希望子供数(女子)				
(男子)	0	1	2	3	4＋	0	1	2	3	4＋
0	11.3	11.7	60.6	7.4	9.0	36.4	46.3	7.9	1.1	8.3
1	37.1	30.7	18.8	1.6	11.9	60.9	24.5	2.5	0.9	11.2
2	89.9	4.2	4.5	0.9	0.6	89.8	5.8	1.2	0.3	2.9
3	95.6	0.7	－	2.2	1.5	96.3	2.2	－	1.5	－
4	90.9	－	2.3	2.3	4.5	88.4	2.3	2.3	4.7	2.3
5＋	80.0	6.7	－	－	13.3	86.7	－	－	－	13.3
計	49.3	14.3	26.0	3.3	7.1	64.7	23.7	3.6	1.0	7.0

第3節　家族計画

出生変動に間接的に働きかける要因は，文化的要因，社会的要因，経済的要因など様々ある。しかし，出生に直接影響を及ぼす主たる要因は，「授乳の出生抑制効果」，「結婚パターンの変更」，「家族計画（人工妊娠中絶も含める）」しかない。今日，これらの要因は出生力媒介変数として知られているが，なかでも家族計画は出生を意識的に操作しようとする場合にとくに重要である。なぜならば，出生を人為的に抑制する際に，家族計画は最も大きな直接的影響力を発揮するからである。したがって，出生率の将来の動向を予測し，家族計画・母子保健プロジェクトの指針および政策を決定するには，家族計画に対する人々の態度を正確に把握する必要がある。そこで，本節では，ネパールにおける家族計画の概況を分析する。

まず，家族計画に対する人々の認識から分析する。今回の調査では，カブレパランチョーク郡が1,383名，ダヌーシャ郡が1,433名，合計2,816名の女性が調査対象となっている。本来ならば，調査対象女子の年齢は15－49歳の範囲内にあるはずであるが，この年齢層をはずれる女子が数名含まれている。そこで，これらの女性を除外するならば，「家族計画を聞いたことがあるか？」という質問に「聞いたことがある」と答えた者は，カブレパランチョーク郡が1,191名であり，ダヌーシャ郡が1,328名の合計2,519名である。これは調査対象女子総数の89.5%，カブレパランチョーク郡の場合は86.1%，ダヌーシャ郡の場合は92.7%にあたる。すなわち家族計画を聞いたことのある者の割合は両地域ともきわめて高く，大半の者が家族計画に関するなんらかの情報を持っていることがわかる。表4－3－1に示されているのは，これらの女子がどの避妊法について聞いたことがあるかを，女子の年齢ごとの手法別構成比によって表したものである。この表を見てまず最初に気がつくことは，いずれの地域，年齢層においても，男女の不妊手術がよく知られていることである。とくにダヌーシャ郡の女性不妊手術は際立っている。第2は，具体的な避妊法に対する情報に偏りがあることである。カブレパランチョーク郡では男女の不妊手術は等しく知られているのに対し，ダヌーシャ郡では女性不妊手術の方がよく知られている。さらにカブレパランチョーク郡とダヌーシャ郡を比較した場合，ピル，IUD，デポプロベラはダヌーシャ郡よりはカブレパランチョーク郡においてよく知られているといえよう。

以上の分析から，カブレパランチョーク，ダヌーシャのいずれにおいても，調査対象女子人口の相当部分が家族計画，避妊法に関する情報をもってはいるが，その情報には地域によって偏りがあることがわかる。しかし，最大の問題は，家族計画の実行である。かつて避妊を実行していたことがあるという回答の件数は，カブレパランチョーク郡が325件，ダヌーシャ郡が341件である。これは，カブレパランチョーク郡の場合，家族計画を聞いたことのある者の27%(=325/1191)，ダヌーシャ郡の場合は26%（=341/1328）に相当する。しかし，避妊法に関する設問は，複数の避妊法を回答することが可能な形式を採っているために，同一人物が複数の手法を用いていたことも考えられる。このことを想起するなら，この割合はかなり低水準ではあるが，それでも現状よりは若干高めに評価している可能性があるといえよう。

表４－３－１　避妊法を聞いたことのある者の割合

年　齢	避　妊　法　名　（%）								合　計	総 サンプル数	少なくとも１つの避妊法を聞いたことがある者の割合
	ピ　ル	コンドーム	ＩＵＤ	デポプロベラ	不妊手術(男)	不妊手術(女)	伝統的手法	その他			
1. カブレパランチョーク郡											
15－19	21.6	9.9	10.1	14.5	21.6	21.8	0.5	－	100.0	385	94
20－24	21.3	8.3	8.7	15.3	22.2	23.0	0.9	0.2	100.0	926	234
25－29	21.2	8.0	8.8	15.7	22.6	22.9	0.8	－	100.0	987	245
30－34	20.4	9.3	9.3	15.6	22.2	21.6	1.0	0.5	100.0	793	195
35－39	21.8	7.8	8.7	14.1	23.6	22.9	0.7	0.4	100.0	669	175
40－44	22.6	7.9	8.8	12.8	24.0	22.5	0.9	0.5	100.0	579	154
45－49	21.6	7.8	9.0	14.5	23.1	22.7	0.8	0.4	100.0	255	67
計	21.4	8.4	9.0	14.8	22.7	22.5	0.8	0.3	100.0	4,594	1,164
2. ダヌーシャ郡											
15－19	16.8	10.6	3.1	10.9	26.5	31.0	1.1	－	100.0	358	113
20－24	16.8	9.5	3.6	12.4	26.9	30.2	0.5	0.1	100.0	862	260
25－29	17.7	8.6	2.9	11.5	27.7	30.6	0.7	0.2	100.0	919	285
30－34	19.7	8.6	2.2	11.8	27.2	29.5	0.9	－	100.0	907	269
35－39	16.7	7.5	2.8	10.8	28.6	33.4	0.2	－	100.0	545	182
40－44	17.3	6.6	1.9	13.6	28.5	30.4	1.7	－	100.0	411	126
45－49	15.2	7.1	2.5	12.4	29.7	32.2	0.7	0.4	100.0	283	91
計	17.5	8.5	2.8	11.9	27.7	30.8	0.7	0.1	100.0	4,285	1,326

さて表４－３－２は，この「かつて避妊を実行していた」と答えた者を，カブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡について，各年齢ごとに実行していた避妊方法別の構成比によって示したものである。この表からまず第１にいえることは，かつて実行していた避妊法にも先に述べたのと同じ地域差が見られることである。すなわち，カブレパランチョーク郡では男性不妊手術が，ダヌーシャ郡では女性不妊手術が最もよく実行されていた手法であるが，ダヌーシャ郡では女性不妊手術に対する依存度がとくに高く，また前者においてはピル，デポプロベラの使用は，後者よりも多いようである。要するに，ダヌーシャ郡における避妊の実行パターンは，女性不妊手術への１点集中型であるといえよう。次に気づくことは，避妊の開始年齢である。カブレパランチョーク郡の場合には，25－29歳から男性不妊手術を受けた比率が増加するのに対し，ダヌーシャ郡ではこの年齢層から女性不妊手術を受けた割合が増えることである。

次は，家族計画の現在の実施状況であるが，これに関するデータには残念ながら不整合が生じている。一般に知られているように，男女の不妊手術は恒久的な避妊手段であり，以前に受けた不妊手術の効果は調査時点においても継続しているはずである。しかしながら，今回の分析に用いたデータでは，以前に不妊手術を受けた者の数よりも，調査時点において実施している避妊法を不妊手術と答えた者の数が少なくなってしまった。このような不整合は，現地調査とコーディングの段階で生じている。すなわち，かつて不妊手術を受けた場合には，調査時点においても不妊手術の項目に丸印をつけるべきところを，そうしなかったケースが発生し，これをフィールド調査の段階でも，コーディングの段階でもチェックしきれなかったのである。そこで，今回の分析では，かつて不妊手術を受けた者の数を，調査時点における数の代理変数とした。

データにこのような処理を施した上で，家族計画について聞いたことのある者に対する割合を求めると，カブレパランチョーク郡が22％（＝259/1191），ダヌーシャ郡は22％（＝294/1328）である。先に述べたように，質問形式が複数の避妊法の回答を認めていることを考えあわせれば，これらの率はかなり低いとはいえ，それでも若干高めになっている可能性もある。さて，回答者の年齢ごとに，現在実行している避妊法の構成比を算定したものが，表４－３－３である。この表から，カブレパランチョーク，ダヌーシャのいずれの郡においても，男女の不妊手術がその圧倒的部分を占めていることがわかる。これを地域別に見るならば，先に述べたのと同じ特色を読み取ることができる。すなわち，カブレパランチョーク郡の場合には男性不妊手術が避妊法の第１位を占めているが，ダヌーシャ郡の場合には女性不妊手術が圧倒的な部分を占めている。また，こうした傾向を年齢別に見るならば，両地域とも25－29歳の年齢層を境として避妊手術を受ける者の割合が増加する反面，家族計画を実行していない者の割合が減少することがわかるであろう。

家族計画の将来の実施に対する態度を，同じように算定して表しているのが表４－３－４である。この表からは，興味深い事柄がわかる。カブレパランチョーク郡の場合，「かつて実行していた避妊法」の場合も，また「現在実行してる避妊法」の場合にも男性不妊手術が第１位を占めていた。ところが，将来利用する予定の避妊法は女性の不妊手術が第１位となっている。これはこれまでの傾向とは逆である。また，これまでの傾向の延長としては，不妊手術以外にもピル，

表4－3－2　かつて実行していた避妊法

年齢	避妊法名（%）								合計	総サンプル数
	ピル	コンドーム	IUD	デポプロベラ	不妊手術(男)	不妊手術(女)	伝統的手法	その他		
1. カブレパランチョーク郡										
15－19	60.0	－	－	－	20.0	20.0	－	－	100.0	5
20－24	28.6	14.3	－	17.1	22.9	17.1	－	－	100.0	35
25－29	20.0	1.5	－	7.7	40.0	30.8	－	－	100.0	65
30－34	14.9	－	1.5	6.0	40.3	37.3	－	－	100.0	67
35－39	13.7	1.4	1.4	4.1	49.3	28.7	－	1.4	100.0	73
40－44	18.2	3.0	3.0	1.5	53.0	21.2	－	－	100.0	66
45－49	30.8	－	7.7	15.4	23.1	23.1	－	－	100.0	13
計	19.1	2.8	1.5	6.5	42.3	27.8	－	0.3	100.0	324
2. ダヌーシャ郡										
15－19	6.3	6.3	－	6.3	25.0	50.0	6.3	－	100.0	16
20－24	18.9	10.8	－	2.7	16.2	51.3	－	－	100.0	37
25－29	10.2	－	2.0	4.1	4.1	79.6	－	－	100.0	49
30－34	12.1	3.0	1.0	2.0	3.0	78.8	－	－	100.0	99
35－39	6.8	2.7	－	2.7	11.0	76.7	－	－	100.0	73
40－44	9.1	2.3	－	－	20.5	68.2	－	－	100.0	44
45－49	－	－	－	－	17.4	82.6	－	－	100.0	23
計	10.0	3.2	0.6	2.3	10.6	73.0	0.3	－	100.0	341

表４－３－３　現在実行している避妊法

年　齢	避　妊　法　名　（%）									合　計	総サンプル数
	ピ　ル	コンドーム	ＩＵＤ	デポプロベラ	不妊手術(男)	不妊手術(女)	伝統的手法	その他	実行していない		
1. カブレパランチョーク郡											
15－19	－	－	－	－	2.2	2.2	－	－	95.6	100.0	45
20－24	1.0	2.0	－	6.1	8.1	6.1	－	－	76.8	100.0	99
25－29	1.7	0.8	－	2.5	21.7	16.7	－	－	56.7	100.0	120
30－34	2.6	－	－	1.7	23.3	21.6	－	－	50.9	100.0	116
35－39	2.7	－	－	－	32.4	18.9	－	0.9	45.9	100.0	111
40－44	3.3	－	1.1	－	38.0	15.2	－	－	42.4	100.0	92
45－49	5.7	－	－	5.7	8.6	8.6	－	－	71.4	100.0	33
計	2.3	0.5	0.2	2.1	22.0	14.6	－	0.2	58.3	100.0	618
2. ダヌーシャ郡											
15－19	－	8.3	－	－	16.7	33.3	－	－	41.7	100.0	24
20－24	－	3.3	－	1.7	10.0	31.7	－	－	53.3	100.0	60
25－29	－	－	－	－	3.7	72.2	－	－	24.1	100.0	54
30－34	2.0	－	－	－	3.1	79.6	－	－	15.3	100.0	98
35－39	1.4	－	－	1.4	11.1	77.8	－	－	8.3	100.0	72
40－44	－	－	－	－	20.0	66.7	－	－	13.3	100.0	45
45－49	－	－	－	－	16.0	76.0	－	－	8.0	100.0	25
計	0.8	1.1	－	0.5	9.5	65.9	－	－	22.2	100.0	378

表4－3－4　将来利用するつもりの避妊法

年齢	避妊法名 (%)								計	総サンプル数
	ピル	コンドーム	IUD	デポプロベラ	不妊手術(男)	不妊手術(女)	その他	わからない		
1. カブレパランチョーク郡										
15－19	25.8	－	1.6	14.5	22.6	32.3	－	3.2	100.0	62
20－24	17.7	1.4	－	8.5	31.2	36.9	2.1	2.1	100.0	141
25－29	21.4	0.8	－	15.1	19.8	38.0	3.2	1.6	100.0	126
30－34	20.0	2.9	1.4	14.3	28.6	28.6	1.4	2.9	100.0	70
35－39	26.8	2.4	－	22.0	19.5	29.3	－	－	100.0	41
40－44	35.3	－	5.9	35.3	5.9	11.7	5.9	－	100.0	17
45－49	25.0	25.0	－	50.0	－	－	－	－	100.0	4
計	21.7	1.5	0.7	14.5	24.3	33.4	2.0	2.0	100.0	461
2. ダヌーシャ郡										
15－19	3.7	－	－	－	9.3	77.8	3.7	5.6	100.0	54
20－24	2.3	－	－	3.0	2.3	88.0	0.8	3.8	100.0	133
25－29	5.7	－	－	4.1	4.9	78.9	2.4	4.1	100.0	123
30－34	6.0	－	1.2	6.0	2.4	79.5	2.4	2.4	100.0	83
35－39	6.7	－	－	4.4	4.4	84.4	－	－	100.0	45
40－44	17.6	－	－	5.9	11.8	64.7	－	－	100.0	17
45－49	20.0	－	20.0	－	－	40.0	20.0	－	100.0	5
計	5.2	－	0.4	3.7	4.3	81.1	2.0	3.3	100.0	460

デポプロベラといった手法を答える者が比較的多いことである。一方ダヌーシャ郡の場合には，第1位が女性不妊手術，第2位が男性不妊手術，そして第3位がピルである。この点はこれまでの傾向と同じである。

さて，以上述べてきたことから，カブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡のいずれにおいても家族計画を聞いたことのある者は多いにもかかわらず，なかなか実行にうつされていない現状がわかるであろう。最後にこの原因を見ておこう。表4－3－5には，年齢ごとに，家族計画を実行しない理由の構成比が示されている。この表から読み取れるように，カブレパランチョーク，ダヌーシャのいずれの郡においても，15歳から30代前半までの若い年代は「子供が欲しい」という理由が最も多い。これとは逆に，両地域とも30代後半以降は，「閉経」，「不妊」，「健康上の理由」，「宗教上の理由」，「夫が嫌う」が多くなる。これを地域別に見るなら，「健康上の理由」はカブレパランチョーク郡に多く，「宗教上の理由」と「夫が嫌う」はダヌーシャ郡に多い。また両地域とも「女児が欲しい」という理由はきわめて少ない。しかしながら，「男児が欲しい」という理由に関していうならば，両地域ともかなり多い。これを年齢別に見ると，カブレパランチョーク郡の場合には，15－19歳の7.7%から25－29歳の30.9%まで急増し，それ以降は45歳－49歳の6.0%へと急落している。他方ダヌーシャ郡の場合には，ピークは25－29歳の28.3%と同じ年齢層であるが，カブレパランチョーク郡に比べると全年齢階層にわたってほぼ均等に十数パーセントの水準を維持している。このことからするならば，男子選好の慣習はダヌーシャ郡の方が根強いといえよう。この女児よりも男児を欲する男子選好の習慣は，出生を増加させる方向に作用する。

ここで特筆すべきことは，「避妊具の入手不可能」はカブレパランチョーク郡に多く，ダヌーシャ郡に少ないことである。これは両地域の地理的特性に関係があると思われる。というのは，丘陵部に位置するカブレパランチョーク郡は，平野部に位置するダヌーシャ郡に比べて交通が困難だからである。このような交通の困難が，避妊器具入手の障害になっていることは，想像に難くない。

さて，子供に対する需要と家族計画の実施との関係は，表4－3－6からも読み取ることができる。これは，現存子供数ごとに，実行している避妊法の比率を表している。この表からわかるように，カブレパランチョーク郡では現存子供数が3人になったあたりから，男性不妊手術を受けるものが増える反面，家族計画を「実行していない」者は減少する。またダヌーシャ郡でも，現存子供が3人あたりになると女性不妊手術を受ける者が増える反面，家族計画を「実行していない」者は減少する。この3人という子供の数は，既に第4章第2節で述べた理想子供数にほぼ一致している。これらの事実から，いずれの地域においても，人々が家族計画を実施するのは理想子供数を達成した後であるということが類推できよう。

これまでに述べてきたことを簡潔に要約するならば，およそ次のようにいうことができよう。カブレパランチョーク，ダヌーシャのいずれの郡においても家族計画について聞いたことのある者は多数いるが，家族計画の実行者はなお低水準にある。夫婦が家族計画を実行にうつすのは，

表4－3－5　家族計画を実行しない理由

年齢	家族計画を実行しない理由(%)											計	総サンプル数
	子供が欲しい	男児が欲しい	女児が欲しい	健康上の理由	宗教上の理由	夫がきらう	別居	閉経	不妊	避妊具の入手不可	その他		
1. カブレパランチョーク郡													
15－19	87.9	7.7	－	1.1	－	－	－	－	1.1	－	1.1	100.0	91
20－24	64.7	19.6	1.1	0.5	0.5	1.0	2.5	1.0	－	2.9	4.9	100.0	204
25－29	33.0	30.9	2.5	11.5	2.6	2.6	1.6	－	1.0	6.8	7.3	100.0	191
30－34	10.1	17.1	5.4	28.7	0.7	2.3	3.9	－	2.3	13.2	16.3	100.0	129
35－39	7.1	13.3	1.8	31.9	1.8	6.2	3.5	1.8	7.1	9.7	15.9	100.0	113
40－44	4.3	3.3	－	26.1	6.5	1.1	2.2	13.0	10.9	14.1	18.5	100.0	92
45－49	2.0	6.0	－	16.0	6.0	－	2.0	38.0	20.0	8.0	2.0	100.0	50
計	34.8	17.1	2.3	14.8	2.1	2.1	2.3	4.0	3.9	7.4	9.4	100.0	870
2. ダヌーシャ郡													
15－19	77.3	2.7	－	－	0.9	0.9	1.8	－	－	－	16.1	100.0	110
20－24	69.5	17.7	0.8	－	2.9	2.1	－	－	0.4	0.8	5.8	100.0	243
25－29	47.7	28.3	1.7	5.5	3.4	3.0	－	－	1.7	1.3	7.6	100.0	237
30－34	37.0	19.6	1.6	11.4	4.3	4.3	－	0.5	5.4	1.6	14.1	100.0	184
35－39	18.9	15.6	1.6	18.0	8.2	6.6	－	9.8	5.7	0.8	14.8	100.0	122
40－44	13.4	11.0	2.4	6.1	6.1	9.8	－	25.6	15.9	－	9.8	100.0	82
45－49	4.3	11.6	－	8.7	4.3	5.8	－	39.1	17.4	－	8.7	100.0	69
計	45.1	17.7	1.2	6.4	4.0	3.9	0.2	5.8	4.5	0.9	10.3	100.0	1,047

表4－3－6　現存子供数と避妊の実行

現存子供数	避妊法名（%）									合計	総サンプル数
	ピル	コンドーム	IUD	デポプロベラ	不妊手術(男)	不妊手術(女)	伝統的手法	その他	実行していない		
1. カブレパランチョーク郡											
0	－	－	－	－	4.7	－	－	－	95.3	100.0	64
1	1.5	1.5	－	5.9	2.9	1.5	－	－	86.6	100.0	68
2	2.4	2.4	－	2.4	17.1	11.0	－	－	65.9	100.0	82
3	1.6	1.6	0.8	1.6	27.6	16.5	－	0.8	50.4	100.0	127
4	3.0	3.0	－	3.0	29.7	14.9	－	－	49.5	100.0	101
5	－	－	－	1.4	33.8	18.3	－	－	46.5	100.0	71
6	5.0	5.0	－	－	22.5	20.0	－	－	52.5	100.0	40
7＋	12.0	12.1	－	3.0	9.1	15.2	－	－	60.6	100.0	33
2. ダヌーシャ郡											
0	－	－	－	－	－	9.1	－	－	90.9	100.0	22
1	－	－	－	3.0	3.0	12.1	－	－	75.8	100.0	33
2	2.2	2.2	－	－	6.7	51.1	－	－	37.8	100.0	45
3	－	－	－	1.2	5.8	80.2	－	－	11.6	100.0	86
4	1.3	1.3	－	－	7.7	85.9	－	－	5.1	100.0	78
5	2.6	2.6	－	－	10.3	76.9	－	－	10.3	100.0	39
6	－	－	－	－	5.0	80.0	－	－	15.0	100.0	20
7＋	－	－	－	－	－	85.7	－	－	14.3	100.0	7

およそ３人の水準にある理想子供数を達成してからのことであり，女性の年齢にして25－29歳以降のことと思われる。また，両地域ともに男子選好の風習が見られるが，この傾向はダヌーシャ郡の方が根強いように思われる。このような地域差は，実際に用いられる（用いられた）避妊法等にも見られるが，こうした地域差には両地域間に見られる地理的，社会的，文化的といった様々な相違が微妙に作用しているように思われる。家族計画をさらに促進させるには，こうした地域差を考慮にいれたきめの細かい対策をたてる必要があろう。

第４節　死　亡

死亡に関しては，世帯調査票第２部の「世帯の社会・経済的状況」で，過去12か月間に死亡した者の性，死因，そして死亡時の年齢が調査されている。表４－４－１は，この死亡状況を年齢５区分別（０歳，０－４歳，１－14歳，15－64歳，65歳以上），地域別に示したものであって，性別表示はしていない。このように簡略な分類を採用したのは，死亡のサンプル数が少ないために，地域，性，年齢等について詳細な区分を行うと法則性が失なわれてしまい，理解が困難になるからである。しかし，合計で230を上回わるサンプル数からは，若干の有益な情報を得ることができる。

表４－４－１　地域別年齢別死亡数とその年齢構成比

年　齢	実数		構成比（％）	
	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
0歳	44	43	36.7	37.1
0－4歳	56	61	46.7	52.6
1－14歳	23	28	19.2	24.1
15－64歳	34	18	28.3	15.5
65歳以上	19	27	15.8	23.3
合　計	120	116	100.0	100.0

まず，地域別の死亡総数であるが，これはカブレパランチョーク郡が120名，ダヌーシャ郡が116名とほぼ同数であって，両地域の死亡総数には有意差は認められない。これを死亡の年齢構成比の観点から見ると，興味深い事実を読み取ることができる。両地域の死亡総数の３分の１以上，すなわちカブレパランチョーク郡の36.7％，ダヌーシャ郡の37.1％は０歳で生じているのである（乳児死亡）。また，年齢区分の幅を０－14歳に広げてみると，カブレパランチョーク郡の場合は55.9％，ダヌーシャ郡の場合は61.2％と，死亡数の２分の１以上がこの若い年齢層に集中していることがわかる。つまり，両地域とも死亡の半数以上が０－14歳の年齢層（年少人口）に生じており，残りの部分を15－64歳（生産年齢人口）と65歳以上（老年人口）の２つの年齢階層が分け

あっていることになる。このように死亡の多くの部分が年少人口に集中する現象は，死亡率の高い社会によく見られる典型的なパターンである。

この死亡の年齢構成比に見られる両地域間の相違は，また非常に重要な問題を提起している。両地域とも乳児死亡の比率はほぼ同じである。ところが1－14歳の年少人口の死亡構成比はカブレパランチョーク郡が19.2％であるのに対し，ダヌーシャ郡は24.1％である。15－64歳の死亡構成比では，この関係が逆転してカブレパランチョーク郡の28.3％に対して，ダヌーシャ郡は15.5％である。さらに，65歳以上の年齢層になると両地域間の関係は再び逆転して，カブレパランチョーク郡の構成比が15.8％であるのに対し，ダヌーシャ郡は23.3％となる。

上記の観察は両地域の人口の構造を考慮していない。そこで，人口の構造の影響を考慮にいれて，このような傾向を死亡率の観点から表したものが，表4－4－2である。普通死亡率は両地域とも人口1,000人当たり13人強であって大差はないが，乳児死亡（0歳児の死亡）は両地域ともきわめて高く，死亡の多くは低年齢層に集中していることがわかる。また，ダヌーシャ郡のそれはとくに顕著であるが，その詳細な説明は第5章総括指標の設定にゆずる。ここでとくに重視すべきことは，年齢別の死亡率にも，先に見たのと同じ両地域間の逆転現象があらわれていることである。

表4－4－2　地域別年齢別死亡数と地域別死亡率

年齢	実数		年齢別死亡率（‰）	
	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
0歳	44	43	148.1	170.6
0－4歳	56	61	42.1	47.7
1－14歳	23	28	6.6	8.6
15－64歳	34	18	7.3	3.8
65歳以上	19	27	53.2	114.9
合計／普通死亡率	120	116	13.7	13.9

こうした現象の原因としては，死亡数の一時的な変動，死因構造の地域差，社会経済状況や公衆衛生水準の相違等様々な要因が考えられるが，その究明はより詳細な分析と，いっそうの情報収集とを要する今後の課題である。

さて，こうした死亡パターンをもたらした死因は，表4－4－3と表4－4－4から見ることができる。前者は今回の分析に用いた死因の分類表であり，後者はその死因別死亡の発生件数である。この死因分類表は，国際疾病分類基準（ICD）やわが国のそれと違って非常に簡単なものであるが，ネパール農村部における保健・衛生状態の実情を把握するには効果的である。なぜならば，病気や出産のときに医者にかかるのは，農村部では一般的なことではない（このことは次節，第5節に詳しく述べられている）。したがって，回答者が正確な死因を知っている可能性は少

なく，彼女たちから得た情報に基づいて死因を正確に判定することは，一般的にいって不可能である。そこで今回の調査では，死因が不明である場合には，調査員が死亡者の生前の病状に関する情報をできるかぎり正確に収集し，コーダーがその情報に基づいて適当と思われる病名を死因分類表から選び出す，という方法によって死因を判定した。このような方法を採る場合，回答者から得られる情報の質などを勘案するならば，詳細な分類基準よりは，むしろ簡単な分類基準の方が実情をより正確に反映するといえよう。

表4－4－3　死因分類表

対象	死因
5歳未満の児童	急性呼吸器系不全
	マシンおよび他の伝染病
	下痢
	栄養失調
	百日ゼキ
	ジフテリア
	他の科学的理由
	迷信
妊婦	出血
	妊婦の発熱
	妊婦の発作と浮腫
	妊婦の黄だん
その他	発熱（原因不明）
	その他の疾病
	分からない

表4－4－4　主たる死因

順位	死因	件数
1	その他の疾病	104
2	他の科学的理由	24
3	発熱（原因不明）	18
4	下痢	15
5	マシンおよび他の伝染病	13
6	急性呼吸器系不全	6
7	妊婦の発作と浮腫	5
8	百日ゼキ	4

さて，このような配慮をした場合でさえも，死因の分析には困難が生じる。表4－4－4からわかるように，死因の第1位は「その他の疾病」の104件であり，第2位は24件の「他の科学的な理由」である。しかし，この死因では何がおきたのかはわからない。第3位の「発熱(原因不明)」になって，ようやく熱病によって死亡していることはわかるが，その正確な病名は不明のままである。つまり，死亡総数の半分近くは，実質的には死因がわからないのである。しかしながら，このような問題点はあるものの，この表からは若干の重要な情報を読み取ることができる。第7位の妊産婦の合併症を別にすれば，第4位の下痢，第5位の急性呼吸器系不全，第8位の百日ゼキといった乳幼児の多くかかる疾病が流行していることである。こうした事実は，死亡総数のおよそ半分が年少人口に集中していることと関連があると思われる。

今回の死因分析では，死亡総数の半数近くの死因の詳細は不明である。この原因は，死因の判定をコーダーに依存したことにある，と思われる。医者も同席の上で，質問票上の回答を再度検討するならば，詳細不明の死因の数が減少し，より正確な分析が可能になるものと思われる。

第5節　疾　病

疾病には，感染性疾患，非感染性疾患および外因性障害があるが，とくに感染性疾患においては，1人の患者が発生すれば単に1人だけにとどまらず，初発患者が火元となって病害がつぎつぎに地域住民の間に波及し，病苦やそれに伴なう各種の損害が地域社会に広がるものである。そのためにも感染源となる患者，保菌者，接触者ならびに感染動物源に対しての感染源対策である届出と消毒を行い，さらに感染経路対策や感受性対策を行わなければならない。

ネパール王国は，疾病に対して，都市には病院はあるが，農村部には病院はほとんどなく，そのためにヘルスポストが置かれ，疾病の治療，予防，妊婦の検診，ファミリープランニングの指導を行っているのが現状である。

我々は，住民の疾病に対する態度について，丘陵部であるカブレパランチョーク郡と平野部であるダヌーシャ郡の各4つのヘルスポストが統括する地域のほとんどが農業従事者である住民女性に対して質問調査を行い検討した。

第1項　治療とその対策

本項ではまずネパールの2郡の女性について疾病に対する治療態度について検討を行った。

表4－5－1－1　病気にかかった人が治療をするかどうか　－ヘルスポスト別

＜単位：%，ただし（　）内は総数＞

	治療する	治療しない	無回答	計
1. カブレパランチョーク郡				
Bhumlutar	93.6	1.7	4.7	(406)
Dapcha	91.4	0.4	8.2	(279)
Khopasi	90.1	1.0	8.8	(477)
Nala	98.4	0	1.8	(304)
計	93.0 (1,364)	0.9 (13)	6.1 (89)	(1,466)
2. ダヌーシャ郡				
Godar	96.9	1.8	1.3	(391)
Godhaghas	98.8	0.6	0.8	(309)
Sabaila	95.7	1.9	2.4	(488)
Tarapatti	91.7	2.0	6.3	(303)
計	95.9 (1,410)	1.6 (24)	2.5 (37)	(1,471)

「病気にかかったら治療をするかどうか」の質問についての答えは表4－5－1－1に示した通りで，カブレパランチョーク郡では1,466名中93.0%の者が治療すると答え，各ヘルスポスト地域でも90%を越えており，ダヌーシャ郡では1,471名中95.9%の者が治療すると答え，各ヘルスポスト地域でも

91.7%を越えていた。このように，ほとんどの者が病気にかかれば，治療するという態度を持っているのがわかる。

次にわずかではあるが，治療をしないと答えた，カブレパランチョーク郡の13名とダヌーシャ郡の24名について分析した結果，小数の人々ではあるが両郡とも財政上の問題と答えた者が最も多いことについては考える必要があるであろう（表4－5－1－2参照)。

表4－5－1－2　治療を受けなかった理由

（単位：%)

ヘルスポスト名	財政上の問題	治療に信頼が持てない	距離がありすぎる	医療機関の設備がない
1. カブレパランチョーク郡				
Bhumlutar	46.2	23.1	7.7	15.4
Dapcha	7.7	0.0	0.0	7.7
Khopasi	30.8	15.4	15.4	7.7
Nala	0.0	7.7	0.0	7.7
計	84.7	46.2	23.1	38.5
2. ダヌーシャ郡				
Godar	20.8	4.2	0.0	0.0
Godhaghas	4.2	0.0	0.0	4.2
Sabaila	20.8	8.3	4.2	8.3
Tarapatti	16.7	0.0	0.0	8.3
計	62.5	12.5	4.2	20.8

治療をすると答えた者が，「治療をどこで受けるか」という質問に対して，表4－5－1－3のように答えている。カブレパランチョーク郡では，1,459名中54.8%が医療機関（病院やH.P.)，32.8%がダミジャクリ(祈祷師)に，ダヌーシャ郡では，1,480名中42.6%が医療機関，42.5%が医者か看護婦に治療を受けると答えている。

カブレパランチョーク郡では地域開業医が皆無のため祈祷師の所に行くのが多くなっているのであろう。ダヌーシャ郡ではゴダールヘルスポスト地域を除いては，開業医と無資格医師がいるため彼らの所に行く者が多くなっていると思われる。

ネパールにおいて最も多発する疾病である下痢について調査した結果，下痢に対する知識は，カブレパランチョーク郡においては有効回答数，1,370名中94.5%の女性が下痢の知識を持っており，年齢階級別でも各年齢階級とも96.8%から100%という高い値が得られた。ダヌーシャ郡においても同様に1,401名中84.2%の女性が下痢の知識を持っており，年齢階級別でも，14歳以下の回答女性1名を除いて，15歳以上の年齢階級別でも各年齢階級とも72.8%から88.6%という高い値が得られた。（表4－5－1－4参照)

次に5歳以下の子供を持っている母親に子供の下痢の理由を質問したのが，表4－5－1－5であり，カブレパランチョーク郡では，有効回答数830名中，41.9%が理由を知らず，知っている者は迷信，

表4−5−1−3　治療場所　−ヘルスポスト別

＜単位：%，ただし（　）内は総人数＞

ヘルスポスト名	病院HP	医者の家看護婦	ダミジャクリ	カビラージュ	無資格医師	その他	無回答	計
1　カブレパランチョーク郡								
Bhumlutar	58.6	1.0	34.8	−	−	0.8	4.8	(399)
Dapcha	56.7	3.5	30.1	0.4	1.4	−	7.8	(282)
Khopasi	56.3	4.2	27.4	1.3	1.5	0.6	8.6	(474)
Nala	45.4	3.9	40.8	4.3	3.6	0.7	1.3	(304)
計	54.8	3.2	32.8	1.4	1.5	0.5	5.9	
	(799)	(46)	(478)	(20)	(22)	(8)	(86)	(1,459)
2.　ダヌーシャ郡								
Godar	40.2	34.5	1.3	−	12.4	10.1	1.6	(386)
Godhaghas	43.9	50.3	0.3	3.2	1.3	0.6	0.3	(310)
Sabaila	42.8	42.1	0.6	−	10.4	1.9	2.2	(463)
Tarapatti	44.2	45.5	0.7	1.0	1.7	0.3	6.6	(301)
計	42.6	42.5	0.8	0.9	7.2	3.5	2.5	
	(622)	(621)	(11)	(13)	(105)	(51)	(37)	(1,460)

表4−5−1−4　年齢別下痢に対する知識

年齢区分	カブレパランチョーク郡		ダヌーシャ郡	
	知っている	比率（%）	知っている	比率（%）
−14	2	100.0	−	0.0
15−19	105	86.8	91	72.8
20−24	252	93.3	235	84.5
25−29	277	95.8	255	85.0
30−34	220	94.8	235	85.8
35−39	188	97.4	171	88.6
40−44	167	96.5	114	83.8
45−49	80	92.0	78	83.0
50+	3	100.0	−	−
計	1,294	94.5	1,179	84.1

表4－5－1－5　下痢の理由

%，ただし（　）内は実数

年齢区分	消化不良	迷　信	胃の不良	腐敗物	汚い食物	ハエ	汚水	理由を不知	計
1．カブレパランチョーク郡									
－14	－	100.0	－	－	－	－	－	－	100.0（　1）
15－19	7.5	13.4	－	14.9	6.0	6.0	1.5	50.7	100.0（ 67）
20－24	14.0	12.7	4.0	13.3	9.3	8.0	0.7	38.0	100.0（150）
25－29	9.3	14.5	2.3	11.6	8.1	11.0	1.2	41.9	100.0（172）
30－34	12.1	10.7	2.1	12.9	8.6	6.4	2.1	45.0	100.0（140）
35－39	9.4	15.0	1.6	11.8	11.8	8.7	0.8	40.9	100.0（127）
40－44	12.3	14.9	1.8	14.0	7.0	13.2	0.9	36.0	100.0（114）
45－49	8.8	8.8	3.5	12.3	3.5	10.5	1.8	50.9	100.0（ 57）
50＋	50.0	－	－	50.0	－	－	－	－	100.0（　2）
計	11.0	13.3	2.3	12.9	8.3	9.1	1.2	41.9	100.0（830）
2．ダヌーシャ郡									
15－19	25.0	4.2	－	29.2	8.3	－	－	33.3	100.0（ 24）
20－24	20.7	12.6	－	12.6	5.7	－	－	48.3	100.0（ 87）
25－29	18.2	10.4	－	19.5	2.6	－	1.3	48.1	100.0（ 77）
30－34	20.4	14.6	1.0	19.4	2.9	0.2	1.0	40.8	100.0（103）
35－39	19.7	9.9	4.2	15.5	7.0	－	－	43.7	100.0（ 71）
40－44	12.5	15.0	2.5	17.5	7.5	－	－	45.0	100.0（ 40）
45－49	32.1	14.3	3.6	17.9	－	－	3.6	28.6	100.0（ 28）
計	20.2	12.1	1.4	17.7	4.7	0.2	0.4	43.3	100.0（430）

腐敗物，消化不良，ハエ，汚い食物，胃の不良，汚水の順で理由を答えている。またダヌーシャ郡では，有効回答数430名中，43.3%の者が理由を知らず，知っている者は，消化不良，腐敗物，迷信，汚い食物，胃の不良，汚水，ハエの順で理由を答えている。

両郡とも5歳以下の子供を持つ母親の約40%が子供の下痢の原因を知らないという事は，重大な事であり，両郡の5歳以下の子供の死因の第1位が下痢であることも当然といえよう。このためにも公衆衛生上，母親の疾病に対する教育が大切である。これに付随して，迷信によって下痢がおこると信じている者が，カブレパランチョーク郡では13.3%，ダヌーシャ郡では12.1%もいる事も，子供の死亡率を高めている理由であろう。また下痢がハエによっておこると考えている母親がカブレパランチョーク郡で9.1%，ダヌーシャ郡で0.2%あり，ダヌーシャ郡の方が非常に低い率であるのは，ダヌーシャ郡は1年中暑い地域のため常にハエが多く，ハエに対してあまり関心がないのではないかと思われる。

下痢の治療対策については，カブレパランチョーク郡では有効回答数1,278名中，28.9%の女性が伝統的治療法によって治療をすると最も多く答え，ついで化学的薬品投与と答えている。ダヌーシャ郡では，有効回答数1,158名中44.7%の女性が化学的薬品投与によって治療をすると最も多く答え

ており，ついで経口補水液であるジーバンジャルの投与と答えている。すなわち，カブレパランチョーク郡では，伝統的治療法の１つである祈禱師による治療などが前述したように多く行われているのではなかろうか。（表４－５－１－６参照）

このように両郡とも下痢が多く，とくに下痢は水系伝染病の１種であるため，子供に水を与える時は，一度煮沸した湯冷を与えるようにし，水源地の汚染を避け消毒するようにすることである。また衛生指導並びに正しい治療法をヘルスワーカなどによって教育していくべきであろう。

表4－5－1－7は，母親が５歳以下の子供で眼疾患を患らっている者の両郡のヘルスポストごとの百分率とその眼病の種類，さらには，母親が子供に「夜，眼がよく見えない」と訴えられて夜盲症であると答えた百分率を示したものである。カブレパランチョーク郡の眼疾患率は，有効回答者1,304名中10.1%で，その中の48.5%が結膜炎であり，トラコーマ（3.8%），眼球乾燥症（2.3%）の順で，また全体の0.8%が夜盲症である。ダヌーシャ郡の眼疾患率は有効回答者1,256名中7.7%で，その中の39.2%が結膜炎であり，眼球乾燥症（6.2%），出生後失明の順で，また全体の4.3%が夜盲症である。これらの事を勘案するとカブレパランチョーク郡の方がダヌーシャ郡より眼疾患が多いことがわかり，その中でも結膜炎，トラコーマが多いという事は，両郡の生活様式の違いからおこるものと思われる。カブレパランチョーク郡は家の中で火を炊いて，炊事をする習慣があるため，室内にその煙が蔓延し，結膜炎やトラコーマがダヌーシャ郡より多くみられるのであろう。また，ダヌーシャ郡の方がカブレパランチョーク郡より眼球乾燥症が多く，また夜盲症も６倍程あり，全体の4.3%というのは，ダヌーシャ郡はカブレパランチョーク郡に比して，今回の調査でビタミンＡの摂取量が食事の差異から少ないためであろうと思われる。またダヌーシャ郡の夜盲症と思われる発症が4.3%ということは，世界各国の中でも多い方に属すると思われる。WHOの報告にはみられないが，その対策を立てる必要があろう。また眼球乾燥症は，WHOの1978年の報告[4)]によると隣国のインドで，8.2%の発生率であることから，ダヌーシャ郡では，この数値に似た値であると思われ，夜盲症とともにビタミンＡの摂取指導をすべきである。

表4－5－1－8は両郡の５歳以下の子供の主疾病６種類についてどのような疾病に罹患したかを，母親に質問したものである。合計の（　）内の数は，各疾病について答えた母親の有効回答数であり，カブレパランチョーク郡では，下痢に罹患した子供が最も多く881名の母親のうち72%の子供が罹患したと答えている。次いで寄生虫症，急性呼吸器系疾患，百日ゼキ，麻疹，ジフテリアの順であった。ダヌーシャ郡では，832名中63.3%の子供が下痢に罹患しており最も多く，次いで，急性呼吸器疾患，寄生虫症，百日ゼキ，麻疹，ジフテリアの順であった。このことからも，両郡とも５歳以下の子供に下痢が多発し，前述したように死亡数も高いことから，下痢対策を考える必要があろう。寄生虫症については，寄生虫の駆虫と人糞の処理が大きな問題であり，生野菜はよく洗うか，湯に通して食べることである。他の疾病は後で述べるが，まずは予防接種の普及によって大きく減少するであろう。

最後に生まれた子供が前表で記した疾病に罹患した時に，何処で治療したかについては表4－5－1－9のみを記しておくので参考とされたい。

表4－5－1－6　下痢の治療とその対策

単位：%ただし（　）内は実数

年齢区分	治療せず	ジーバンジャル	塩・砂糖水	近代的薬物	アユルベティック	他の伝統的治療法	その他	治療法知らない	計
1.　カブレパランチョーク郡									
－14	－	－	－	100.0	－	－	－	－	100.0（　2）
15－19	4.9	10.8	4.9	19.6	5.9	29.4	11.8	12.7	100.0（102）
20－24	4.9	16.2	6.5	25.1	6.5	25.5	8.9	6.5	100.0（247）
25－29	3.3	17.8	6.5	25.5	9.5	24.7	10.9	1.8	100.0（275）
30－34	2.7	15.1	2.7	21.0	8.7	34.7	12.8	2.3	100.0（219）
35－39	6.5	8.1	1.6	32.4	7.6	24.9	15.7	3.2	100.0（185）
40－44	3.0	9.6	3.0	25.3	4.2	34.9	15.7	4.2	100.0（166）
45－49	5.1	7.6	1.3	29.1	7.6	34.2	15.2	－	100.0（　79）
50＋	－	－	－	66.7	－	33.3	－	－	100.0（　3）
計	4.1	13.3	4.2	25.5	7.4	28.9	12.5	4.1	100.0（1,278）
2.　ダヌーシャ郡									
15－19	3.4	17.0	1.1	36.4	6.8	3.4	14.8	17.0	100.0（　88）
20－24	5.7	20.0	1.3	43.0	7.0	3.9	11.7	7.4	100.0（230）
25－29	5.6	17.5	1.2	46.4	6.3	3.2	14.7	5.2	100.0（252）
30－34	4.3	20.3	2.2	43.3	8.2	2.6	13.0	6.1	100.0（231）
35－39	4.2	22.2	0.6	43.1	6.0	1.8	15.0	7.2	100.0（167）
40－44	1.8	15.9	2.7	49.6	5.3	5.3	17.7	1.8	100.0（113）
45－49	3.9	11.7	－	55.8	3.9	2.6	14.3	7.8	100.0（　77）
計	4.5	18.7	1.4	44.7	6.6	3.2	14.1	6.8	100.0（1,158）

表4－5－1－7　眼疾患とその種類

(%)

ヘルスポスト名	疾病率	疾病の種類						夜盲症
		結膜炎	眼球乾燥症	出生後失明	先天的失明	トラコーマ	その他	
1. カブレパランチョーク郡								
Bhumlutar	12.7	43.2	2.3	–	–	–	54.5	0.3
Dapcha	10.6	63.0	3.7	3.7	–	3.7	25.9	1.4
Khopasi	6.7	40.7	0.0	–	3.7	3.7	51.9	1.1
Nala	11.6	50.0	3.1	–	–	9.4	37.5	0.4
計	10.1	48.5	2.3	0.8	0.8	3.8	43.8	0.8
2. ダヌーシャ郡								
Godar	2.0	14.3	14.3	–	14.3	–	57.1	1.7
Godhaghas	10.1	42.9	7.1	–	–	–	50.0	6.3
Sabaila	10.8	48.4	9.7	9.7	–	–	32.3	3.5
Tarapatti	12.4	31.3	3.1	–	–	3.1	62.5	9.5
計	7.7	39.2	6.2	3.1	1.0	1.0	49.5	4.9

表4－5－1－8　5歳以下での子供のヘルスポストごとの疾病発生状況

単位：%，ただし（　）内は総数

ヘルスポスト名	下痢症	麻　疹	寄生虫症	百日ぜき	呼吸器系感染症	ジフテリア
1. カブレパランチョーク郡						
Bhumlutar	69.3	10.3	42.2	39.2	46.0	6.0
Dapcha	69.8	17.8	37.3	41.8	38.6	3.2
Khopasi	71.5	21.3	37.5	26.4	38.8	4.3
Nala	78.2	25.1	43.1	28.9	33.7	6.5
計	72.0 (861)	18.9 (850)	40.1 (856)	33.5 (856)	39.7 (853)	5.1 (849)
1. ダヌーシャ郡						
Godar	64.1	8.4	21.4	11.8	17.8	1.4
Godhaghas	70.3	12.7	46.5	25.3	77.1	4.8
Sabaila	56.9	10.9	21.4	20.0	31.3	1.6
Tarapatti	65.1	9.8	30.1	22.3	62.9	1.2
計	63.3 (832)	10.4 (818)	28.4 (830)	19.4 (829)	44.0 (831)	2.1 (797)

表4－5－1－9　子供の治療場所（末子についてのみ）

（下段%）

	治療せず	自宅治療	ヘルスポスト／病院	ＦＰクリニック	ダミ／ジャンクリ	アユルベディック医師	その他	計
1. カブレパランチョーク郡								
下痢	122 21.0	96 16.5	158 27.2	2 0.3	121 20.8	39 6.7	43 7.4	581
麻疹	72 48.6	37 25.0	19 12.8	－ －	8 5.4	5 3.4	7 4.7	148
寄生虫症	47 18.8	35 14.0	68 27.2	22 8.8	17 6.8	19 7.6	42 16.8	250
百日ぜき	74 30.7	44 18.3	78 32.4	1 0.4	6 2.5	18 7.5	20 8.3	241
呼吸器系感染症	134 43.6	48 15.6	63 20.5	1 0.3	27 8.8	16 5.2	18 5.9	307
ジフテリア	8 22.9	7 20.0	8 22.9	－ －	3 8.6	4 11.4	5 14.3	35
計	457 29.3	267 17.1	394 25.2	26 1.7	182 11.7	101 6.5	135 8.6	1,562
2. ダヌーシャ郡								
下痢	72 14.8	185 38.0	41 8.4	8 1.6	2 0.4	52 10.7	127 26.1	487
麻疹	38 49.4	30 39.0	3 3.9	－ －	－ －	1 1.3	5 6.5	77
寄生虫症	29 15.3	62 32.6	16 8.4	3 1.6	8 4.2	22 11.6	50 26.3	190
百日ぜき	34 23.8	42 29.4	10 7.0	－ －	1 0.7	22 15.4	34 23.8	143
呼吸器系感染症	96 28.6	133 39.6	15 4.5	2 0.6	4 1.2	23 6.8	63 18.8	336
ジフテリア	4 28.6	7 50.0	1 7.1	－ －	－ －	－ －	2 14.3	14
計	273 21.9	459 36.8	86 6.9	13 1.0	15 1.2	120 9.6	281 22.5	1,247

第2項　産前・産後の女子検診

産前・産後の女子検診は，母子保健上重要な問題であり，妊産婦死亡率の高いといわれているネパールでは，とくに実行しなければならない課題である。即ち母子保健は公衆衛生の基本分野の1つで，行政的にも確固たる地位を占めなければならない。

まず両地域の結婚している女性に，現在妊娠しているかどうか，妊娠していればどこで出産をしたいかを質問したのが，表4－5－2－1であり，カブレパランチョーク郡では1,356名の女性中妊娠していると答えた者は148名(10.9%)であり，この中で出産したい場所については，93.2%の者が自宅と答え，病院が5.4%であった。妊娠していない者1,196名中で希望出産場所について答えた者は5名で，自宅が3名，ヘルスポストが2名であった。ダヌーシャ郡では，1,407名の女性中妊娠していると答えた者は，115名(8.2%)であり，この中で出産したい場所については，96.5%の者が自宅と答え，ヘルスポストが2.6%，病院が0.9%であった。妊娠していない者1,282名中で，希望出産場所について答えた者は1名で，ヘルスポストで出産したいとの事であった。

表4－5－2－1　妊産婦の希望出産場所

単位：%，ただし（　）内は実数

希望場所	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
病院	5.4	0.9
ヘルスポスト	0	2.6
自宅	93.2	96.5
計	100.0 (148)	100.0 (115)

次に，母親に「子供をどこで出産したか」と質問したところ，カブレパランチョーク郡では，有効回答数，1,190名中家で出産した者が95.3%と最も高く，病院4.0%，ヘルスポスト0.7%であり，ダヌーシャ郡では，有効回答数1,225名中家での出産が96.6%と最も高く，病院2.9%，ヘルスポスト0.5%であった。（表4－5－2－2参照）

表4－5－2－2　子供の出産場所

単位：%ただし（　）内は実数

ヘルスポスト名	病院	ヘルスポスト	自宅	その他	計
1. カブレパランチョーク郡					
Bhumlutar	5.0	0.3	94.7	－	100.0 (337)
Dapcha	3.6	0.9	95.5	－	100.0 (223)
Khopasi	3.8	1.1	95.1	－	100.0 (369)
Nala	3.4	0.4	96.2	－	100.0 (261)
計	4.0	0.7	95.3	－	100.0 (1,190)
2. ダヌーシャ郡					
Godar	1.2	－	98.8	－	100.0 (336)
Godhaghas	3.1	0.4	96.6	－	100.0 (261)
Sabaila	3.1	0.5	96.4	－	100.0 (388)
Tarapatti	5.0	1.2	93.8	－	100.0 (241)
計	2.9	0.5	96.6	－	100.0 (1,225)

妊産婦の希望出産場所は両郡ともに93%以上の者が自宅と答えている。病院で出産した者はカブレパランチョーク郡の方が4.0%でダヌーシャ郡の2.9%より多く，またヘルスポストで出産した者はカブレパランチョーク郡の0.7%，ダヌーシャ郡の0.5%である。したがって今後ヘルスポストの普及と設備の向上，従事者の質の向上と常在者の増加を計らなければならないであろう。

母性保護を完全に行うには，妊婦を集めて集団検診などによって集団指導をするのがよいが，妊娠末期あるいは異常，合併症などによって集団検診に参加できない妊婦に対しては訪問指導が必要である。妊婦の検診した場所についての回答結果は，表4－5－2－3に示す通りである。

表4－5－2－3　ヘルスポストごとの妊娠期間中の母親検診場所

＜単位：%，ただし（　）内は総数＞

ヘルスポスト名	病　院	ヘルスポスト	T.B.A.	その他	計
1.　カブレパランチョーク郡					
Bhumlutar	82.1	14.3	－	3.6	100.0（ 28）
Dapcha	72.7	9.1	－	18.2	100.0（ 11）
Khopasi	82.1	7.7	2.6	7.7	100.0（ 39）
Nala	82.8	－	4.3	13.0	100.0（ 22）
計	82.0	8.0	2.0	8.0	100.0（100）
2.　ダヌーシャ郡					
Godar	76.9	7.7	－	15.4	100.0（ 13）
Godhaghas	50.0	5.6	－	44.4	100.0（ 18）
Sabaila	30.4	26.1	4.3	39.1	100.0（ 23）
Tarapatti	57.1	14.3	－	28.6	100.0（ 21）
計	50.7	14.7	1.3	33.3	100.0（ 75）

カブレパランチョーク郡では回答者1,372名中有効回答数100名（7.3%），ダヌーシャ郡では，回答者1,429名中有効回答数75名(5.2%)と非常に少なく，これでは正確な情報を得ることは困難であるが，有効回答数の中で分析してみると，カブレパランチョーク郡では82.0%，ダヌーシャ郡では50.7%が病院で検診を受けており，カブレパランチョーク郡の方が病院での検診が多く，ヘルスポストでの検診はダヌーシャ郡の方が多くみられる。またその他と答えたのは，ダヌーシャ郡が多く，これは恐らく無資格医師にみてもらっているのではないかと思われる。しかしこの表における質問項目は，場所と人とについての異なるものに対して質問しており，質問票作成上の誤りが問題である。次に，検診を受けた人がその検診に対して満足しているかどうかを示したのが表4－5－2－4，で多くの者が満足しているようである。

妊婦がいかなる時に検診するのかという理由を，両郡で質問したのが表4－5－2－5であり，答えた妊婦は，カブレパランチョーク郡105名，ダヌーシャ郡81名と少数ではあるが，通常検診のために行くと答えた者は，ダヌーシャ郡の方が多く，これはダヌーシャ郡の方が地理的に平野部

で検診のために医療機関へ行く事が容易であり，またヘルスワーカーやマザーズクラブの活動が活発であるためだと推察される。カブレパランチョーク郡では，合併症のある時に検診を受ける割合が多くなっている。

表4－5－2－4　各検診場所に対する満足度

( ) 内は%

地域名	病院	ヘルスポスト	T.B.A.	その他	計
1. カブレパランチョーク郡	74 (90.2)	6 (75.0)	2 (100.0)	7 (87.5)	89 (89.0)
2. ダヌーシャ郡	29 (76.3)	9 (81.8)	0 (0.0)	23 (92.0)	61 (81.3)

表4－5－2－5　妊婦検診の理由

%, ( ) 内実数

ヘルスポスト名	通常検診	合併症	通常検診＋合併症	計
1. カブレパランチョーク郡				
Bhumlutar	35.7	57.1	7.1	100.0 (28)
Dapcha	53.8	46.2	－	100.0 (13)
Khopasi	41.5	51.2	7.3	100.0 (41)
Nala	52.2	30.4	17.4	100.0 (23)
計	43.8	47.6	8.6	100.0 (105)
2. ダヌーシャ郡				
Godar	64.3	14.3	21.4	100.0 (14)
Godhaghas	60.9	34.8	4.3	100.0 (23)
Sabaila	47.8	43.5	8.7	100.0 (23)
Tarapatti	47.6	52.4	－	100.0 (21)
計	54.3	38.3	7.4	100.0 (81)

妊婦の検診内容は，表4－5－2－6のとおりで，検査を受けた項目が少なく，全員が全ての検査項目を受けるのが当然であるが，各人とも1つの項目しか受けていないことは残念である。

妊婦検診に対する助言者についての質問は表4－5－2－7のとおりで，両郡とも家族からの助言が最も多く60%を占めている。それに対して両郡ともヘルスワーカーによる助言が数%と少ないことは今後の大きな課題であろう。

ヘルスワーカーが家庭を訪問した頻度は，カブレパランチョーク郡では，1,372名の母親のうち，月に1回と答えたものが3.0%，3ケ月に1回が3.7%，1年に1回が4.9%で，ともに同じような頻度で訪問しており，少なくとも1年に1回以上訪問を受けたのは，11.6%と非常に訪問頻度は少ない。ダヌーシャ郡では，1,411名の母親のうち，月に1回と答えたものが49.2%，3ケ月に1回が9.5%，1年に1回が9.7%で，1ケ月に1回訪問を受けるという頻度が最も高く，ヘルスワーカーの訪問が頻繁であることを物語っている。少なくとも1年に1回以上訪問を受けたのは，68.4%と大変高い頻度を示し，ダヌーシャ郡の方がカブレパランチョーク郡に比べて約6倍ものヘルスワーカーの訪問を受けていることになる。

表4－5－2－6　妊婦検診内容

単位：%ただし（　）内は実数

ヘルスポスト名	体　重	血　圧	尿検査	触　診	聴診器	その他	回答者数
1. カブレパランチョーク郡							
Bhumlutar	57.1	64.3	64.3	46.4	57.1	10.7	(28)
Dapcha	76.9	84.6	69.2	84.6	15.4	15.4	(13)
Khopasi	51.2	63.4	58.5	51.2	26.8	26.8	(41)
Nala	52.2	47.8	43.5	69.6	39.1	17.4	(23)
計	56.2	62.9	58.1	58.1	36.2	15.2	(105)
2. ダヌーシャ郡							
Godar	50	71.4	64.3	71.4	42.9		(14)
Godhaghas	21.7	47.8	30.4	30.4	39.1	21.7	(23)
Sabaila	30.4	43.5	39.1	69.6	39.1	30.4	(23)
Tarapatti	19.0	38.1	33.3	42.9	57.1	9.5	(21)
計	28.4	48.1	39.5	51.9	44.4	17.3	(81)

表4－5－2－7　妊婦検診の助言者

単位：%ただし（　）内は実数

ヘルスポスト名	ヘルスワーカー	配偶者	その他の家族	友人	その他	計
1. カブレパランチョーク郡						
Bhumlutar	6.9	6.9	62.1	13.8	10.3	100.0 (29)
Dapcha	−	25.0	41.7	25.0	8.3	100.0 (12)
Khopasi	5.0	10.0	65.0	7.5	12.5	100.0 (40)
Nala	4.5	18.2	72.7	−	4.5	100.0 (22)
計	4.9	12.6	63.1	9.7	9.7	100.0 (103)
2. ダヌーシャ郡						
Godar	30.8	7.7	53.8	7.7	−	100.0 (13)
Godhaghas	5.6	22.2	66.7	−	5.6	100.0 (18)
Sabaila	4.2	12.5	79.2	−	4.2	100.0 (24)
Tarapatti	−	9.5	71.4	4.8	14.3	100.0 (21)
計	7.9	13.2	69.7	2.6	6.6	100.0 (76)

これらのヘルスワーカーが少なくとも1年に1回以上訪問した時に，どのような母子保健上必要な項目について話しをしたのを聞いたことがあるのかというのが，表4－5－2－8であり，複数回答であるのに，カブレパランチョーク郡では各項目について話しを聞いた頻度は，わずか10%以下で，最も高い頻度の予防接種と次の家族計画の項目についてすら7.5%，7.4%でしかない。ダヌーシャ郡では，カブレパランチョーク郡に比べて，各項目とも話しを聞いた頻度は高く，最も高い頻度で聞いた項目は，家族計画で65.5%，次が下痢と経口補水液の話で34.9%である。これは，ダヌーシャ郡の方が平野地でありカブレパランチョーク郡の方は山岳地帯であるため，

ヘルスワーカーの訪問がダヌーシャ郡では容易であり，またヘルスワーカーの活動もダヌーシャ郡の方が盛んなためであると思われる。

表4－5－2－8　ヘルスワーカーが何について話しているか

（単位：%）

1. カブレパランチョーク郡		2. ダヌーシャ郡	
予防接種	7.5	家族計画	65.5
家族計画	7.4	下痢／経口補水治療	34.9
下痢／経口補水治療	5.7	子供の保健	34.1
医薬品	4.9	予防接種	31.2
子供の保健	4.7	寄生虫	28.8
保健教育	4.7	医薬品	27.8
寄生虫	4.6	出産間隔	24.5
呼吸器系疾患	4.3	産前産後検診	22.1
出産間隔	4.1	授乳	21.2
産前産後検診	3.9	栄養	19.6
授乳	3.6	保健教育	18.7
栄養	3.5	呼吸器系疾患	17.6
ポスター／パンフレット	1.4	ポスター／パンフレット	9.9

一般に標準的な妊婦健康管理のパターンは初回受診時の詳しい問診による一般歴から始まる。つぎに診察に際してはとくに血圧と体重に注意し，検査としては検尿，貧血検査を行うようにすればよいと思われる。

今後はネパールにおいても母子健康手帳に代わるものを作成し，妊婦にそれを交付し，定期検診を行っていけば妊産婦死亡が減少するであろう。このためにも，検診のできる設備を増大し，ヘルスワーカーの養成をすべきである。

第3項　予防接種

小児に対する予防接種は，小児の感染症に対する感受性対策であって，人工免疫により感受性を低下させることである。

両郡の母親に予防接種に対する知識を誰から得たかを質問したのが表4－5－3－1である。

両郡とも最も多かったのは，予防接種キャンプと答えているが，ダヌーシャ郡の方がカブレパランチョーク郡よりもはるかに多く，予防接種キャンプの活動が大きい中でもとくにダヌーシャ郡では活発であることがうかがえる。ヘルスワーカーと答えた者は，両郡ともほぼ同様であるが，ともに10%以下であることは母子保健を踏えた上で，ヘルスワーカーの指導と増員をしなければならないと思われる。

両郡における5歳以下の子供を持っている母親に予防接種の種類ごとの受けた割合を尋ねたものが表4－5－3－2である。

表4－5－3－1　ヘルスポスト別予防接種に対する知識

単位：%，ただし（　）内は総数

ヘルスポスト名	ヘルスワーカー	配偶者	その他の家族	友　人	ラジオ	新　聞	マザーズクラブ	予防接種キャンプ	その他	計
1. カプレパランチョーク郡										
Bhumlutar	12.9	1.4	1.4	0.7	3.4	－	0.3	52.4	27.6	(294)
Dapcha	10.3	3.4	1.7	0.9	7.8	－	－	50.4	25.4	(232)
Khopasi	5.8	3.4	1.7	1.2	7.8	－	0.2	53.9	26.0	(412)
Nala	6.1	3.8	1.1	2.3	9.1	－	－	57.4	20.2	(263)
計	8.5	3.0	1.5	1.2	7.0	－	0.2	53.6	25.0	
	(102)	(36)	(18)	(15)	(84)	－	(2)	(644)	(300)	(1,201)
2. ダヌーシャ郡										
Godar	7.1	1.5	2.2	0.6	－	－	0.6	80.6	7.4	(325)
Godhaghas	8.6	1.4	1.1	0.7	0.4	－	0.4	63.2	24.3	(280)
Sabaila	4.5	2.4	0.8	0.3	－	0.3	0.5	80.7	10.6	(378)
Tarapatti	9.9	0.4	－	0.7	－	－	－	39.2	26.7	(273)
計	7.2	1.5	1.0	0.5	0.1	0.1	0.4	72.8	16.3	
	(91)	(19)	(13)	(7)	(1)	(1)	(5)	(914)	(205)	(1,256)

表4－5－3－2　予防接種割合　－ヘルスポスト別－

単位：%，ただし（　）内は総数

ヘルスポスト名	B.C.G.	麻　疹	D.P.T.					ポリオ				
			0回	1回	2回	3回	計	0回	1回	2回	3回	計
1. カプレパランチョーク郡												
Bhumlutar	52.3 (67)	46.6 (61)	33.1	45.2	16.1	5.6	(124)	54.1	31.1	11.5	3.3	(122)
Dapcha	47.3 (43)	62.1 (54)	34.4	44.1	11.8	9.7	(93)	43.8	31.5	15.7	9.0	(89)
Khopasi	55.6 (84)	57.2 (87)	24.5	42.3	20.2	12.9	(163)	48.7	28.5	12.0	10.8	(158)
Nala	63.5 (54)	51.8 (44)	35.6	31.7	17.8	14.9	(101)	51.0	23.0	11.0	15.0	(100)
計	54.5 (248)	54.1 (246)	31.0	41.2	17.0	10.8	(481)	49.7	28.6	12.4	9.4	(469)
2. ダヌーシャ郡												
Godar	93.1 (161)	75.6 (121)	6.8	26.0	22.6	44.6	(177)	8.5	27.8	19.3	44.3	(176)
Godhaghas	90.7 (127)	54.1 (72)	14.7	14.0	20.3	51.0	(143)	17.5	17.5	19.6	45.5	(143)
Sabaila	83.1 (152)	68.6 (120)	11.8	24.6	26.7	36.9	(187)	24.2	24.2	21.0	30.6	(186)
Tarapatti	97.0 (131)	65.3 (79)	12.1	14.3	21.4	52.1	(140)	15.8	18.7	18.7	46.8	(139)
計	90.5 (571)	66.6 (392)	11.1	20.4	23.0	45.4	(647)	16.6	22.5	19.7	41.1	(644)

ＢＣＧの予防接種をしたと答えた者は，カブレパランチョーク郡で54.5%，ダヌーシャ郡で90.5%であり，ダヌーシャ郡はカブレパランチョーク郡より約36%程多く，ほとんどの子供が接種している。また麻疹の予防接種については，両郡とも約50%以上の接種を受けており，ダヌーシャ郡の方が約12%程多く接種している。ジフテリア，百日せき，破傷風の３種混合ワクチンの接種率は，両郡とも60%以上と高く，カブレパランチョーク郡では69.0%の接種率で３回接種のうち１回したと答えた者が，41.2%で最も多かった。ダヌーシャ郡では，88.9%の接種率で３回接種のうち３回したと答えた者が45.4%で最も多く，ダヌーシャ郡の方が接種率が高かった。ポリオ・ワクチンの接種率は，両郡とも50%以上で，カブレパランチョーク郡では，50.3%の接種率で３回接種のうち１回したと答えた者が28.6%で最も多かった。ダヌーシャ郡では，83.4%の接種率で３回したと答えた者が41.1%で最も多く，ダヌーシャ郡の方が接種率が高かった。以上のように各予防接種ともダヌーシャ郡の方がカブレパランチョーク郡より高い割合で接種されている。このようにダヌーシャ郡の方が高いのは，やはり前述したように地理的条件とヘルスワーカーの訪問頻度それに予防接種キャンプの活動によるためであろう。

次に，両郡の５歳以下の子供を持っている母親にどこで子供の予防接種を受けたかを質問したのが表４－５－３－３であり，カブレパランチョーク郡では，63.9%，ダヌーシャ郡では80.1%と両郡とも高い割合で予防接種キャンプで接種を受けているが，ダヌーシャ郡の方がさらに高い値を示している。ヘルスポストと病院で受けた者は両郡とも少ないがヘルスポストで受けた者はカブレパランチョーク郡の方が多いし，病院で受けたものはダヌーシャ郡の方が多い。これらのことは予防接種キャンプに負う所が大であり，とくにダヌーシャ郡において活発に活躍しているものと思われる。しかしまたヘルスポストの活躍をも忘れてはならないであろう。

予防接種を受けられなかった理由は，両郡ともサービスが利用できないと答えた者が多くカブレパランチョーク郡では74%，ダヌーシャ郡44.8%となっているが，これは交通の便の問題と合わせて考える時，接種を受ける場所までの距離が大であるということと，カブレパランチョーク郡のように山であるため道が悪いということも考慮にいれなければならないであろう。そのためにも，予防接種キャンプの設定場所並びに回数の増加を計らなければならない。（表４－５－３－４参照）

第４項　経口補水治療法

ネパールでは子供の下痢症が非常に多く，下痢症による死亡も第１位を占めていることは前述したとおりである。下痢をおこすと体内の水分が多量に失われるので，水分の補給が重要である。ネパールの農村のように医療設備や薬品の乏しい場所では，応急治療法としての経口補水治療は，重要な下痢治療法であり，そのためにすでに商品化されたジーバン・ジャルと家庭で塩・砂糖と水を混ぜて作るメディスン・ウォーターがある。

これらの経口補水液の知識を母親が得た場所の質問に答えたのが表４－５－４，である。

経口補水液について聞いたことがある母親は，ジーバン・ジャルについてはカブレパランチョ

表4－5－3－3　5歳以下の子供が予防接種を受けた場所

単位：%ただし（　）内は実数

場所	病院	ヘルスポスト	予防接種キャンプ	FPクリニック	その他	無回答	計
1. カブレパランチョーク郡							
Bhumlutar	8.0	9.9	63.0	－	－	19.1	100.0 (162)
Dapcha	3.7	19.6	54.2	－	0.9	21.5	100.0 (107)
Khopasi	3.8	3.8	66.0	0.5	0.5	25.4	100.0 (209)
Nala	9.4	9.4	70.8	－	2.8	7.5	100.0 (106)
計	6.0	9.4	63.9	0.2	0.9	19.7	100.0 (584)
2. ダヌーシャ郡							
Godar	5.6	3.6	82.6	－	0.5	7.7	100.0 (195)
Godhaghas	15.2	2.4	75.0	－	0.6	6.7	100.0 (164)
Sabaila	2.4	1.4	84.9	－	0.9	10.4	100.0 (212)
Tarapatti	8.0	1.7	76.4	－	－	13.8	100.0 (174)
計	7.4	2.3	80.1	－	0.5	9.7	100.0 (745)

表4－5－3－4　5歳以下の子供が予防接種を受けられなかった理由

単位：%ただし（　）内は実数

ヘルスポスト名	サービスが利用出来ない	経費の問題	交通の便の問題	場所がわからない	サービスは必要ない	必要性を感じない	計
1. カブレパランチョーク郡							
Bhumlutar	68.8	3.1	7.8	4.7	10.9	4.7	100.0 (64)
Dapcha	73.7	2.6	5.3	5.3	7.9	5.3	100.0 (38)
Khopasi	70.3	5.4	2.7	8.1	9.5	4.0	100.0 (74)
Nala	84.7	－	8.5	1.7	1.7	3.4	100.0 (59)
計	74.0	3.0	6.0	5.1	7.7	4.2	100.0 (235)
2. ダヌーシャ郡							
Godar	63.6	－	－	4.5	27.3	4.5	100.0 (22)
Godhaghas	39.1	8.7	13.0	8.7	30.4	－	100.0 (23)
Sabaila	48.6	2.7	10.8	8.1	21.6	8.1	100.0 (37)
Tarapatti	26.1	4.3	13.0	8.7	34.8	13.0	100.0 (23)
計	44.8	3.8	9.5	7.6	27.6	6.7	100.0 (105)

表4－5－4　経口補水治療法関連情報

単位：％

情報源	ジーバン・ジャル		メディスン・ウォーター	
	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
ヘルスワーカー	6.4	38.2	1.4	33.3
配偶者	2.6	1.1	0.6	1.5
その他の家族	3.2	9.8	1.7	8.2
友人	2.2	4.1	0.9	3.6
ラジオ	69.3	19.0	89.1	33.7
新聞	0.1	0.4	－	0.4
マザーズクラブ	0.2	1.6	0.2	1.3
その他	16.1	25.7	6.2	17.8

ーク郡で1,479名中65.7%，ダヌーシャ郡で1,478名中59.1%，メディスン・ウォーターについては，カブレパランチョーク郡で73.2%，ダヌーシャ郡で35.3%であり，経口補水液について両補水液ともカブレパランチョーク郡の方がダヌーシャ郡よりもよく聞いている。またカブレパランチョーク郡では，メディスン・ウォーター，ダヌーシャ郡では，ジーバン・ジャルの方をよく聞いている。

経口補水液の情報を得たところは，カブレパランチョーク郡では，ジーバン・ジャルについては，有効回答数973名の女性中69.3%の者がラジオからで最も多く，ヘルスワーカーからは6.4%であり，ダヌーシャ郡では，874名の女性中38.2%の者がヘルスワーカと答えており，最も多く，ラジオと答えたものが，19.0%であった。また，メディスン・ウォータについては，カブレパランチョーク郡では有効回答数1,082名の女性中89.1%の者がラジオから情報を得ており，家族が1.7%，ヘルスワーカーが1.4%であった。ダヌーシャ郡では，有効回答数522名の女性中33.7%がラジオ，33.3%がヘルスワーカーからと答えている。このように両郡とも経口補水液の情報をかなり多く，ラジオから得ていることは，やはり宣伝効果がいかに大きいかということを如実に物語っており，前に述べた下痢の治療法でも経口補水液を使用すると答えた母親がカブレパランチョーク郡では17.5%，ダヌーシャ郡では，20.1%いたことから，名前だけを知っているのではなく，実際の治療に使用していることがわかり，今後は，ラジオによる簡単な情報を繰り返し放送して，疾病予防や治療の情報源として使用すればかなりの効果があることが示唆された。

また，経口補水液の情報をダヌーシャ郡では多くの女性がヘルスワーカーから得ているということは，ダヌーシャ郡の方が前述したように保健活動が活発であることを示している。今後は，ラジオによる宣伝とヘルスワーカーやマザーズクラブから正しい経口補水液の情報を母親達に数多く繰り返し伝えるべきであろう。

第６節　食習慣と栄養状態

我々の日常行動の多くは，ほとんど無意識に行われているが，食べることについても全く同じである。習慣は意識的な行動に根ざしているものであるが，時の経過とともに不変的な繰り返しや慣行によって，このような行動を無意識的に，かつ自動的に固定化する傾向を持っている。

食習慣は我々のものの考え方や，好き嫌い，経験，食物の選択および食べることに関心をもつことなどの行為の総括であって，文化的，社会的，経済的，感情的，生理的な影響から育ってくる。もし人々がよい食習慣をもっているならば，心身のためになる最もよい食物を選択するであろう。また，よくない食習慣とは，結果的にあまり質のよくない食物を食べる習慣であって，よくない食習慣を改めることが困難なのは，適切な食餌と身体に欠乏した食餌をみきわめることに無知であるためである。しかし，教育と説得によってよくない食習慣は改善されるはずである。このことからよい食習慣を身につけ，よくない食習慣を改めれば，栄養状態は良好となってくる。

また栄養は，生物が代謝を営むために，外界から適当な物質を体内にとりこむことであって，とくに人間自身を対象とした時に使われることばであり，物質を体内にとりこむ状態が栄養状態である。

我々は，上記の観点からネパールの食習慣と栄養状態についてアンケート調査を実施した。

第１項　子供の栄養状態と食習慣

乳児の栄養の必要性は高く，正常な乳児は５～６ケ月で生まれたときの体重の２倍になり，最初の誕生日前にはその３倍になる。そのためにも栄養の補給が必要となってくる。生まれて２，３日間は初乳という特別な母乳がでることを母親は知っていなければならない。これは普通の母乳や牛乳よりも多量のタンパク質と塩分を含み，また感染に対する乳児の抵抗力を作る一定の物質を含んでいるからである。ネパールでは初乳は不潔なので乳児には飲ませないという習慣がある。

実際カブレパランチョーク郡では，母親1,279名中66.1%が初乳を飲ませていると答え，ダヌーシャ郡では，1,270名中34.2%が初乳を飲ませていると答えている。ダヌーシャ郡の医師の中にも初乳を飲ませないという事例もあった。

子供の無機質，カルシウム，リン，ビタミンDの必要量は大人よりも多いが，タンパク質，D以外のビタミン，鉄分については大人より少ない。このような栄養必要量は牛乳を多飲させることによって満たされる。

ネパールの子供の栄養状態についてカブレパランチョーク，ダヌーシャ両郡で調べたのが表４－６－１－１である。

ここでの栄養状態は，UNICEFが開発した簡便法で判定している。即ち，小児の上腕部の周囲をプラスチック製のテープで測定して腕の大きさから判定する方法である。本来ならば３ケ月以降の小児なら，カープ指数で栄養指数をあらわせばよいのであるが，体重計と身長を測定する計

表4－6－1－1　子供の栄養状態

＜単位：%，ただし（　）内は総数＞

	栄養失調	軽度の栄養失調	正　常	計
1. カブレパランチョーク郡				
末　　子	13.6	33.2	53.2	(810)
末子から2番目	6.8	32.0	61.3	(266)
末子から3番目	8.3	29.2	62.5	(24)
計	11.8	32.8	55.4	(1,100)
2. ダヌーシャ郡				
末　　子	21.7	35.9	42.4	(766)
末子から2番目	6.8	29.3	63.9	(191)
末子から3番目	23.0	38.5	38.5	(13)
計	18.8	34.6	46.6	(970)

器がないために，インタビューアが本法で測定した。その結果カブレパランチョーク郡では検査

$$\text{カープ(Kaup)指数} = \frac{\text{体重 (g)}}{〔\text{身長(cm)}〕^{2}} \times 10$$

した1,100名の5歳以下の子供のうち，11.8%の栄養失調と34.6%の軽度の栄養失調がみられ，ダヌーシャ郡では，検査した970名の5歳以下の子供のうち，18.8%の栄養失調と34.6%の軽度の栄養失調がみられた。

またカブレパランチョーク郡では，最後に生まれた子供に，ダヌーシャ郡では最後から2番目とそれに次いで近い値で最後の子供に栄養失調がみられた。

本法だけでこのように栄養失調といえるかどうかは，困難なところであるが，我々の見たところでもやはり，かなりの栄養状態の悪い子供がみうけられた。このようにかなり高い栄養失調の子供が両地域の農村地帯にいることは，食習慣にも原因があるのではなかろうか。米は充分に食べるが，動物タンパクや脂肪の摂取が非常に少ないためであろう。アフリカの黄金海岸によくみられるクワシオルクル症も少数ではあるがみられた事は，明らかに糖質は充分摂取していてもタンパク質をほとんど摂取していないということを如実に物語っている。

次に乳児が離乳食として，どのような食物を与えられているであろうか。それが表4－6－1－2である。

ほとんどの両郡の母親が，離乳食としてダルと米を与えており，ついで牛乳と米飯を混ぜたものでこの2種類が乳児の主な離乳食であると思われる。それに緑色野菜などを食べさせており，またネパール独特の離乳食を若干の母親が与えているようである。ただ残念な事に卵がほとんど与えられておらず，これは卵が非常に高価であり，自分の所で生産されてもほとんど売られてしまうといった現状にあるためであろう。また，獣肉や魚肉についてもあまり与えられていないことは，これらの食物が貴重なために経済的に与えることが困難なのであろう。離乳期には，固

表4－6－1－2　離乳食として与えられている食物　－ヘルスポスト別－

1. カブレパランチョーク郡

単位：％（　）内は母親の回答数

Bhumlutar (408)		Dapcha (283)		Khopasi (480)		Nala (305)		計 (1,476)	
Dal & Rice	75.5	Dal & Rice	75.3	Dal & Rice	70.0	Rice with Milk	84.9	Dal & Rice	75.0
Rice with Milk	70.3	Rice with Milk	68.6	Rice with Milk	65.0	Dal & Rice	81.6	Rice with Milk	71.3
Green Vegetable	19.9	Green Vegetable	36.0	Green Vegetable	27.5	Green Vegetable	23.0	Green Vegetable	26.1
Kichadi, Jaulo	19.4	Kichadi, Jaulo	19.1	Kichadi, Jaulo	17.9	Kichadi, Jaulo	10.2	Kichadi, Jaulo	16.9
Sarbottam Pitho	7.1	Dried beans	7.1	Sarbottam Pitho	5.8	Dried beans	4.9	Dried beans	5.3
Dried beans	5.9	Sarbottam Pitho	2.1	Dried beans	4.6	Meat & Fish	3.6	Sarbottam Pitho	4.7
Meat & Fish	5.4	Khir	1.4	Meat & Fish	3.8	Sarbottam Pitho	2.3	Meat & Fish	3.7
Egg	3.4	Fruits	1.4	Fruits	2.7	Egg	2.3	Egg	2.4
Fruits	2.7	Meat & Fish	1.1	Egg	2.5	Khir	2.0	Fruits	2.1
Khir	0.2	Egg	0.7	Khir	0.6	Fruits	1.0	Khir	0.9

2. ダヌーシャ郡

Godar (394)		Godhaghas (314)		Sabaila (472)		Tarapatti (303)		計 (1,483)	
Dal & Rice	92.6	Dal & Rice	95.2	Dal & Rice	93.6	Dal & Rice	87.1	Dal & Rice	92.4
Rice with Milk	50.3	Rice with Milk	32.2	Rice with Milk	62.7	Rice with Milk	44.6	Rice with Milk	49.2
Khichadi, Jaulo	39.3	Green Vegetable	16.9	Khichadi, Jaulo	23.1	Khichadi, Jaulo	25.7	Khichadi, Jaulo	26.2
Green Vegetable	17.8	Khichadi, Jaulo	14.6	Green Vegetable	16.1	Green Vegetable	12.5	Green Vegetable	16.0
Meat & Fish	13.5	Fruits	0.6	Khir	12.3	Fruits	2.3	Meat & Fish	7.1
Sarbottam Pitho	12.7	Khir	0.3	Meat & Fish	9.5	Meat & Fish	2.3	Khir	5.6
Fruits	10.2	Dried beans	0.3	Fruits	5.5	Sarbottam Pitho	1.7	Sarbottam Pitho	5.3
Dried beans	9.1	Meat & Fish	0.3	Sarbottam Pitho	5.1	Khir	1.7	Fruits	5.1
Egg	5.6	Sarbottam Pitho	－	Dried beans	3.2	Dried beans	0.3	Dried beans	3.6
Khir	4.8	Egg	－	Egg	2.3	Egg	－	Egg	2.2

形食の導入を続けることが大切であり，穀物食，卵黄，裏ごしした肉，果物，野菜は早い時期に食べさせるようにすべきである。

第２項　妊娠期間の栄養状態

妊娠は，自分自身と胎児およびその付属組織のために充分な食品が必要であると考えるが，妊娠は生理学的には，妊娠前とは全く異なった状態であり，そのような状態に対して適応する過程において，食餌の必要性も変化していくものと思われる。そのためにも妊婦は毎日良質のタンパク質，無機質であるカルシウムやリン，鉄，それにビタミンを上手に摂取しなければならない。

妊婦が栄養を補うために食べる食品について質問した回答が表４－６－２である。

両郡とも栄養を補うために必要な食品をとっている妊婦は15%以下で非常に少ない。その中でも少ないながらどのような必要品をとっているかをみるとカブレパランチョーク郡では，ナラを除いては，第１にタンパク質の摂取としており，ダヌーシャ郡ではゴタールを除いては，第１に牛乳と答えている。ついで果物，Ghee（脂肪），野菜などが両郡でわずかに摂取すると答えているが，カブレパランチョーク郡の方はGheeの方が多く，ダヌーシャ郡では野菜の方が多いようである。卵については，カブレパランチョーク郡の方が幾分多く摂取しているようであるが，その中でもコパシーではとくに多く摂取されている。ダヌーシャ郡では一般に卵を摂取する者は少ないようである。

ネパールでは，妊婦の食習慣に，動物性タンパクや指肪を多く取る習慣がないのかも知れないし，後の項で述べるが妊産婦の取るべき食事の悪習慣が原因となっているのかもしれない。先にも述べたように妊婦は適切な栄養摂取が重要であり良質なタンパク質が必要であるが，必要総タンパク質の３分の１以上を動物性タンパク質で摂取する必要性がある。これは植物性タンパク質に不足しているアミノ酸を補うためであって，タンパク質の不足は母体の栄養を悪くし，貧血の原因となる。また脂肪も熱量が大であるばかりでなく，ビタミンA，D，E，Fなどがあり妊娠産褥に重要な要素である。即ちビタミンAの欠乏は，先天性の盲の子供を出産する率が高くなる。隣国のインドでは毎年かなりの先天性の盲の子供がビタミンAの欠乏で出産しているとの報告[4]があった。また妊娠中は，カルシウムが必要であり，胎内の子供の骨や歯の形成に重要な無機質で，１日1.5gが必要となるが，穀類中のカルシウムはphytin塩として存在するために吸収されないので他の食物からとらなければならないことに注意すべきである。そのためにもネパールでは，牛乳を多量に飲むことが大切であろう。またビタミンB，Cは，野菜を多量に摂取することによって補えばよいのである。

第３項　授乳と食習慣

哺乳している母親は１日当たり850mlという多量の乳汁を作っているために，授乳中の栄養所要量は成人の生活中ではほぼ最高のものである。このために母親は，およそ1,000cal程の追加エネルギーを必要とし，さらに過剰のタンパク質，鉄，ビタミンも必要となる。

表4－6－2　妊婦が栄養を補うために食べる物　－ヘルスポスト別－

1. カブレパランチョーク郡

単位：%（ ）内は母親の回答数

Bhumlutar (408)		Dapcha (283)		Khopasi (480)		Nala (350)		計 (1, 476)	
Protein	16. 2	Protein	11. 7	Protein	18. 1	Ghee	14. 8	Protein	15. 4
Ghee	9. 8	Milk	8. 1	Milk	9. 4	Protein	13. 4	Milk	8. 9
Milk	9. 1	Fruits	7. 4	Fruits	8. 3	Milk	8. 5	Fruits	7. 7
Fruits	6. 7	Ghee	3. 9	Beans	6. 0	Fruits	8. 2	Ghee	6. 1
Beans	3. 4	Beans	3. 5	Ghee	5. 6	Green Vegetable	3. 3	Beans	4. 1
Green Vegetable	2. 7	Green Vegetable	2. 1	Green Vegetable	5. 4	Beans	2. 6	Green Vegetable	3. 6
Egg	1. 7	Egg	2. 1	Egg	5. 4	Egg	1. 6	Egg	3. 0
Others	15. 2	Others	15. 9	Others	16. 7	Others	8. 9	Others	15. 4

2. ダヌーシャ郡

Godar (394)		Godhaghas (314)		Sabaila (472)		Tarapatti (303)		計 (1, 483)	
Protein	10. 9	Milk	15. 0	Milk	11. 9	Milk	16. 5	Milk	12. 3
Milk	7. 6	Fruits	7. 0	Protein	6. 6	Protein	7. 3	Protein	7. 8
Green Vegetable	6. 3	Protein	6. 1	Fruits	4. 0	Fruits	5. 0	Fruits	4. 9
Fruits	4. 1	Egg	1. 9	Green Vegetable	2. 1	Green Vegetable	1. 7	Green Vegetable	3. 0
Ghee	2. 0	Green Vegetable	1. 6	Ghee	1. 3	Beans	1. 7	Ghee	1. 2
Egg	1. 3	Ghee	0. 6	Beans	0. 8	Egg	0. 7	Egg	0. 9
Beans	－	Beans	0. 3	Egg	0. 2	Ghee	0. 7	Beans	0. 7
Others	3. 0	Others	15. 3	Others	10. 6	Others	14. 2	Others	10. 3

表4－6－3　授乳期間に栄養を補うために食べる物　－ヘルスポスト別－

1. カブレパランチョーク郡　　単位：％（　）内は母親の回答数

Bhumlutar (408)		Dapcha (283)		Khopasi (480)		Nala (305)		計 (1, 476)	
Protein	20. 3	Protein	16. 3	Protein	21. 3	Protein	24. 9	Protein	20. 8
Ghee	12. 7	Milk	12. 4	Ghee	11. 7	Milk	12. 8	Milk	12. 0
Milk	11. 8	Ghee	11. 0	Milk	11. 5	Ghee	12. 1	Ghee	11. 9
Green Vegetable	5. 6	Green Vegetable	7. 8	Green Vegetable	6. 0	Green Vegetable	3. 6	Green Vegetable	5. 8
Fruits	3. 9	Fruits	4. 9	Fruits	6. 0	Beans	3. 0	Fruits	4. 4
Beans	2. 9	Beans	3. 9	Beans	5. 8	Fruits	2. 0	Beens	4. 1
Egg	2. 0	Egg	2. 5	Egg	2. 3	Egg	1. 0	Egg	2. 0
Others	20. 6	Others	29. 0	Others	25. 0	Others	29. 8	Others	25. 5

2. ダヌーシャ郡

Godar (394)		Godhaghas (314)		Sabaila (472)		Tarapatti (303)		計 (1, 483)	
Milk	8. 9	Milk	33. 8	Milk	18. 0	Milk	29. 4	Milk	21. 2
Protein	5. 3	Beans	3. 5	Green Vegetable	5. 1	Protein	6. 6	Protein	4. 4
Green Vegetable	5. 3	Protein	2. 9	Protein	3. 2	Beans	5. 0	Green Vegetable	3. 8
Fruits	2. 3	Fruits	2. 5	Fruits	1. 9	Fruits	3. 6	Fruits	2. 5
Egg	1. 0	Egg	2. 2	Beans	1. 5	Green Vegetable	2. 3	Beans	2. 3
Ghee	0. 8	Green Vegetable	1. 3	Egg	0. 4	Egg	1. 0	Egg	1. 1
Beans	0. 3	Ghee	0. 3	Ghee	0. 4	Ghee	1. 0	Ghee	0. 6
Others	12. 4	Others	40. 1	Others	20. 3	Others	29. 0	Others	24. 2

授乳期間中に栄養を補うために食べる食品について質問した回答が表4－6－3である。

カブレパランチョーク郡では，全てのヘルスポスト地域で第1にタンパク質と答えているのに対して，ダヌーシャ郡では牛乳と答えている。しかしカブレパランチョーク郡ではタンパク質は20.8%，牛乳12.0%の者しか摂取しておらず，またダヌーシャ郡では牛乳は21.2%，タンパク質4.4%の者しか摂取しておらず，授乳期間中に必要な栄養物をとっている妊産婦は大変少ないのがわかる。

Ghee（脂肪），果物，緑色野菜になると摂取している妊産婦はなお少なく，卵になると両郡ともほぼ同じ程度で，摂取するのが大変高価な食品でとることができないようである。

妊婦と授乳中の産婦，即ち妊産婦についての食習慣をみてみるとカブレパランチョーク郡は山岳地，ダヌーシャ郡では平野部でインドの影響を受けている地域であるため，幾分かの違いはある筈である。ネパールにはホット食品とコールド食品があり熱い冷いという食品ではないらしいが，妊産婦はコールド食品を食べてはいけないという食習慣がある。そのために乳児死亡率と妊産婦死亡率が高くなっている原因の一因かもしれない。

このような食習慣は今後，栄養学的に解明し，よいものは残し悪いものは捨てるべきである。これまでの食習慣を改めるのは大変であろうが，教育の普及と公衆衛生の向上によって農村部の意識の改革を行うことが大切である。

次に子供に対する授乳期間がどのくらいであるかを次の式で求めた。

$$平均授乳期間 = \frac{\Sigma \cdot M \cdot P}{\Sigma \cdot P}$$（M：授乳の月数　P：各授乳月数の人数）[5]

カブレパランチョーク郡では子供への平均授乳期間は，26.3ケ月，ダヌーシャ郡は26.9ケ月で，ダヌーシャ郡の方が0.6ケ月程子供への平均授乳期間が長いが，ほとんど変わりがないようである。

乳児の離乳は通常生後5ケ月から9ケ月の間に始まり，18～24ケ月ぐらいまでに子供はたいていの成人食を食べることができるようになるものである。授乳期間はネパールの現状に則したものを考慮するのが最良であろう。今後は離乳について適切な指導をすべきである。

（注）

1）　人口ピラミッド類型別年齢構造指標で山型にみられる類型によれば，0～4歳人口比率が，14～20%，年少人口係数（年少人口／総人口×100）が40～49，年少人口指数70～75（年少人口／生産年齢人口×100）である。

大友篤，嵯峨座晴夫編，『アジア諸国の人口構造と労働力』，アジア経済研究所，1980年，16ページ。

2）大友篤，嵯峨座晴夫編，『アジア諸国の人口動態』，アジア経済研究所，1982年，130ページ。

3）　上田耕三，小林和正，大友篤，『アジア人口学入門』，アジア経済研究所，1978年，61ページ。

4）　World Health Organization, *Global Occurrence of Vitamin A Deficency and Xerophthalmia, Report of a Joint WHO/UNICEF/USAID/Helen Keller International Meeting,* World Health Organization Technical Report Series 672, pp. 21－23, 1982.

5）　授乳月数は36カ月までである。

第5章　総括：最終目標指標の設定

第５章　総括：最終目標の設定

既に第１章で述べたように，人口，家族計画，母子保健，医療・公衆衛生等に関する統計資料は，ネパールでは十分とはいい難い状況にあるのが実情である。今回の「人口・家族計画基礎調査」の目的は，母子保健（MCH）に重点をおきながらこれらの資料を収集し，家族計画・母子保健プロジェクトの指針を策定する際の参考資料，すなわち11の項目について基礎指標を構築することである。本章では，これまでの諸章で行ってきた分析をふまえた上で，これら一連の指標を算定する。

(1)　妊婦の検診率

妊婦が検診を受けたか否かを調べることは，母性の健康を考えるに際して，きわめて重要な情報となる。そこで，まずカブレパランチョーク，ダヌーシャ両郡の妊婦の総数について検診率を求める。この場合，分母は妊娠歴のある女子人口であり，分子は妊娠期間中に何らかの妊婦検診を受けた女子人口である。

妊婦の検診率＝妊婦検診を受けた女子人口÷妊娠歴のある女子人口

	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
病院，ヘルスポスト	9.2%	7.1%

上記の計算結果からわかるように，両地域とも10%にも満たない低水準にあるとはいえ，医療機関での検診率はカブレパランチョーク郡の方が若干高い。この一因は，カブレパランチョーク郡内の調査対象地域が首都カトマンズにも近く，医療機関にもアクセスしやすい，比較的めぐまれた地域であることにもあろう。

(2)　児童の検診率

５歳未満の児童が病気にかかったときに，どの程度の割合が医療機関で検診を受けるかを見ることは，児童保健の実態を知る上でも重要である。ここでは，児童の検診率を次式によって求めた。ただし，この場合の医療機関とは，ヘルスポスト，FPクリニックに限る。

児童の検診率＝各種疾病時に子供を医療機関につれて行った母親の数÷０～4歳人口

各種疾病時	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
下痢	12.0%	3.8%
マシン	1.4%	0.2%
寄生虫	6.8%	1.5%
百日ゼキ	5.9%	0.8%
急性呼吸器系不全	4.8%	1.3%
ジフテリア	0.6%	0.1%

上記の推計結果から，両地域とも各種の疾病時における児童の通院率はきわめて低調であるが，それでもカブレパランチョーク郡の方がダヌーシャ郡よりは良いことがわかる。この原因も上記（妊婦の検診率）と同じであろう。

(3) 児童の予防接種率

予防接種は児童の疾病や死亡を予防する上で重要な要因である。そこで，児童保健を推進するためにも，どの程度の児童が予防接種を受けているかを知る必要がある。この割合は次の式から求めた。

児童の予防接種率＝各種予防接種の件数÷０－４歳人口

	BCG	マシン	DPT			ポリオ		
			1回	2回	3回	1回	2回	3回
カブレパランチョーク郡	18.7%	18.5%	14.9%	6.2%	3.9%	10.1%	4.4%	3.3%
ダヌーシャ郡	44.6%	30.6%	10.3%	11.6%	23.0%	11.3%	9.9%	20.7%

上に記された割合から，ほとんど全ての予防接種割合において，ダヌーシャ郡がカブレパランチョーク郡を上回っていることがわかる。BCGとマシンの予防接種では，両地域の格差はきわめて大きい。また，DPT（ジフテリア，百日ゼキ，破傷風の三種混合ワクチン）とポリオの予防接種からは，きわめて興味深い知見が得られる。DPT，ポリオのいずれの場合にも，両地域における第１回目の接種率には大きな差は見られない。しかし，カブレパランチョーク郡の場合には，予防接種率は回を追うごとに減少し，最終的な接種率は3.9%と3.3%になる。これとは対照的に，ダヌーシャ郡の場合には回を追うごとに増加し，第３回目の接種率は23.0%と20.7%になる。この原因は，カブレパランチョーク郡の場合の場合には，予防接種の回数が進むにつれてドロップ・アウトする者が増えるのに対し，ダヌーシャ郡の場合には，大半の者が２回，３回目の予防接種をドロップ・アウトすることなく継続して受けるために，予防接種を受けた者の数が累積さ

れていくことにある，と思われる。

(4) 疾病の発生およびその原因

今回の基礎調査では，過去12か月間における主要な疾病の発生状況に関する情報は，5歳未満の子供について収集されている。これは，本基礎調査が児童の保健に重点をおいているためである。このデータに基づいて，疾病の発生率を求めた。なお，計算式とその結果は，下記の通りである。

0－4歳児の各種疾病の発生率＝0－4歳児で各疾病にかかった者÷0－4歳人口

	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
下痢	46.7%	41.2%
マシン	12.1%	6.6%
寄生虫	25.8%	18.5%
百日ゼキ	21.6%	12.6%
急性呼吸器系不全	25.5%	28.6%
ジフテリア	3.2%	1.3%

各種疾病の発生率からまず気づくことは，カブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡のいずれにおいても，児童の4割以上が過去12か月の間に下痢にかかっていることである。また，発生率の大きさを順位別に見た場合，両地域ともほとんど同じであることと，大半の疾病の発生率はカブレパランチョーク郡の方がダヌーシャ郡よりも高いこと，の2点も印象的である。ここで指摘しておかなければならないことは，マシン，百日ゼキ，ジフテリアといった伝染病の発生率と，下痢の発生率である。上記の計算結果では，伝染病の発生率は，カブレパランチョーク郡の方がダヌーシャ郡より高くなっている。しかし常識的には，丘陵部に位置し，人家が散在し，往来も困難なカブレパランチョーク郡は，全く対照的な地理的条件下にあるダヌーシャ郡より，伝染病は伝播しにくいはずである。[1] このような結果をもたらした原因の1つとしては，両郡における予防接種率の影響が考えられる（先に述べた予防接種率を参照)。

下痢の発生率に関しても同様の傾向が見られる。大半の疾病は汚染された飲料水，食物等を媒介として伝染するが，[2] 下痢はとくにその傾向が強い。しかし，既に第4章第1節で述べたように，丘陵部に位置するカブレパランチョーク郡の主たる水源は，泉や湧水であって，一般的には，これらは平野部に位置するダヌーシャ郡の主たる水源である井戸よりは，汚染される危険性は少ないと思われる。では，なぜカブレパランチョーク郡の方が下痢にかかる割合が高いのだろうか。この問題に関してはさらに慎重な検討が必要であるが，カブレパランチョーク郡で発生する下痢は主としてミネラルを含んだ湧水，すなわち硬水に起因するものであって，ダヌーシャ郡の細菌性の下痢とは異質のものである可能性も考えられる。

(5) 死亡

死亡に関しては，下記の計算式から乳児死亡率，幼児死亡率，普通死亡率といった基礎的な指標を求めることができる。これらの指標のなかでも，乳児死亡は公衆衛生水準，栄養，社会・経済状況等に敏感に反応するため，その社会の保健・福祉水準等を考察する上でも重要な指標であるし，また出生率に多大な影響を与えるので，出生を分析する上でも重要な指標である。[3)]

乳児死亡率＝（乳児死亡数÷出生数）×1,000

幼児死亡率＝（1歳－4歳児の死亡数÷1歳－4歳児の人口）×1,000

普通死亡率＝（総死亡数÷総人口）×1,000

なお，各指標の推計結果は次の通りである。

	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
乳児死亡率	148.1	170.6
幼児死亡率	11.6	17.5
普通死亡率	13.7	13.9

上記の推計値からわかるように両地域の普通死亡率はそれぞれ1,000人当たり13.7，13.9といくぶん低めに見えるが，1971－81年の普通死亡率を13.5とする中央統計局の推計値，1984年のそれを11.9とするニュー・イラーの推計値等からすれば，[4)] まず妥当なものと思われる。乳児死亡率はカブレパランチョーク郡が148.1である。この推計値は，ネパールの1970－1975年の乳児死亡率を153，1980－1985年を139とする国連の推計値を考慮するならば，まず無難な数値といえるであろう。[5)] これに対して，ダヌーシャ郡の乳児死亡率は170.6であり，若干高すぎるようにも思われる。この原因の1つとして挙げることができるのは一時的な出生変動である。既に第4章第4節の死亡（表4－4－1）からわかるように，乳児の死亡数はほぼ同じである。ところが出生水準はダヌーシャ郡の方が低くなっている（後述の出生率参照)。このような場合，ダヌーシャ郡の乳児死亡率は，当然高くなる。乳児死亡率という指標には，出生に敏感に反応する傾向がある。しかし，もしダヌーシャ郡の出生水準が一時的なものでないならば，このダヌーシャ郡の乳児死亡率は高いことになる。この問題は，時系列分析による詳細な検討が必要であって，慎重な考察を要する今後の課題である。この乳児死亡率に関する問題はまた，出生率との関係という観点からみると，重大な課題を提起していることになる。この点については出生率の項目で詳細に述べる。

(6) 乳児の死因

乳児の死因はきわめて興味ある課題である。しかしながら，既に第4章の4節で述べたように，死因に関する大半の回答が「その他の疾病」，「他の科学的理由」であることや，また総死亡数に関してはある程度のサンプル数は確保できたが，乳幼児死亡だけに限っていえば死因を分類する

にはサンプル数があまりにも少ない，といった理由から乳児の死因は求められなかった。

(7) 避妊法の普及率

避妊法に関するデータには，残念ながら不整合が生じた。周知のように，不妊手術は，男女の別を問わず，恒久的な避妊手段である。つまり，かつて受けた不妊手術の効果は，現在も継続していることになる。そこで，「以前に不妊手術を受けた」と答えた者については，現在実行している避妊法の「不妊手術」の項目にも丸印が自動的に記載されるべきである。しかし，そのような処理が施されなかった事例が，コンピュータ処理の段階で発見されている。つまり，不妊手術による避妊の現時点における実行者数が，過去に不妊手術を受けた者より少なくなっているのである。そこで今回の分析では，かつて不妊手術を受けた者の数を，不妊手術による避妊の調査時点における実行者数の代理変数として用い，避妊法の普及率を求めた。なお，この普及率の計算式は，次の通りである。

現在の避妊法普及率＝現在の避妊実行件数÷被調査女子人口

現在の普及率	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
普及率（全手法）	18.7%	20.5%
男性不妊手術	9.9%	2.5%
女性不妊手術	6.5%	17.4%
不妊手術以外の手法	2.2%	0.6%
伝統的手法	0.1%	−

上記の計算結果からわかるように，両地域とも現在の避妊法の普及率は約20%程度である。この普及率はこれまでの調査結果から見ても妥当なものであると思われるが，[6)] 既に第4章第3節で述べたように，重複回答が可能な設問形式からすれば，この推計値は若干高めになっている可能性もある。さて，両地域とも主な避妊法は男女の不妊手術であるが，カブレパランチョーク郡は男性不妊手術が多く，ダヌーシャ郡は女性不妊手術が多いという特色が見られる。また伝統的避妊法はほとんど活用されていないといえよう。

(8) 出生率

出生に関しては，普通出生率，合計特殊出生率，総有配偶出生率の3つの指標が一般的である。その計算式は，下記の通りである。

普通出生率＝（総出生数÷総人口）×1,000

合計特殊出生率＝Σ（母親の年齢別の出生数÷年齢別女子人口）

総有配偶出生率＝Σ（母親の年齢別の出生数÷年齢別有配偶女子人口）

普通出生率は最も一般的な指数であって，人口1,000人当たり何人生まれるかを示している。

また，合計特殊出生率は１人の女性が15～49歳の間（再生産期間）に生む子供の数を示しており，有配偶出生率は結婚した女性が同期間内で生む子供数を示している。なかでも総有配偶出生率は，ネパールのようにほとんどの女性が結婚する皆婚に近い状況の下では，３つの指標のなかでは最も有効であろう。各指数の計算結果は次の通りである。

	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
普通出生率	31.97	27.53
合計特殊出生率	4.62	3.90
総有配偶出生率	6.40	4.95

上記の推計結果からわかるように，いずれの指標をみても，カブレパランチョーク郡の出生水準の方がダヌーシャ郡よりも高い傾向がみられる。ここで指摘しておかなければならないことは，乳児死亡率と出生率との関係である。既に第１章をはじめとして幾度か述べたように，乳児死亡率の低下は出生率の低下に貢献することが知られている。しかし，上記の乳児死亡率と出生率とを比較すると，乳児死亡率の低いカブレパランチョーク郡で出生率が高く，逆に乳児死亡率の高いダヌーシャ郡で出生率が低くなっている。この原因の探究には，さらに多くの情報の収集と，より慎重な分析が必要である。また，これら一連の推計値の信頼度であるが，1986年の総有配偶出生率が5.62であることからすれば,[7] この推計結果はかなりの妥当性を有しているといえよう。

(9) 食習慣

妊婦および授乳期間中の母親に与える食物は，母性の健康を推し量る上できわめて重要である。そこで，妊婦および授乳期間中の母親に下記の食物を与えると答えた者の被調査女子人口に対する比率を求めた。下記の計算結果から，ミルクを除けば，いずれの項目もカブレパランチョーク郡の比率の方が，ダヌーシャ郡よりも高いことがわかる。この推計結果から，両地域の間には食習慣の相違があることが，読み取れるであろう。

妊婦に対する食物	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡	授乳中の母親への食物	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
動物性タンパク	16.4%	8.0%	動物性タンパク	22.2%	4.5%
果物	8.2%	5.0%	果物	4.7%	2.6%
野菜	3.8%	3.1%	野菜	6.1%	3.9%
豆類	4.4%	0.7%	豆類	4.3%	2.4%
卵	3.2%	1.0%	卵	2.1%	1.1%
ミルク	9.5%	12.7%	ミルク	12.8%	22.0%
ギー	6.5%	1.3%	ギー	12.7%	0.6%
その他	16.5%	10.7%	その他	27.3%	25.1%

⑽ 児童の栄養状態

児童の保健を考える場合，予防接種，医療機関，疾病構造を見ることも重要であるが，また児童の栄養状態を考慮することも同じように必要である。なぜならば，低栄養摂取と伝染病が結びつく時，往々にして児童にとっては致命的な結果がもたらされるからである。[8] 本基礎調査では，アーム・サーカムフェレンス・テープを用いて，6か月以上5歳未満の児童の栄養状態を「栄養失調」，「低栄養摂取」，「正常」の3つに分けて評価した。このデータに基づいて，カブレパランチョーク，ダヌーシャ両郡の児童がおかれている栄養状態を，次式によって指数化した。

児童の栄養状態構成比＝各栄養状態の児童数÷0－4歳人口

地　名	カブレパランチョーク郡			ダヌーシャ郡		
栄養状態	栄養失調	低栄養摂取	正　常	栄養失調	低栄養摂取	正　常
割　合	9.8%	27.2%	45.8%	14.4%	26.3%	35.3%

この計算結果からわかるように，両地域とも栄養失調児は全児童の約1割，あるいはそれ以上いることになる。低栄養摂取の児童も入れると，その割合は約4割になる。つまり，全児童のおよそ半数近くが，栄養不良の状態にあることになる。これを出生順位別の比率に換算してみると，また興味深い知見が得られる（計算結果は下記）。

	カブレパランチョーク郡			ダヌーシャ郡		
	栄養失調	低栄養摂取	正　常	栄養失調	低栄養摂取	正　常
末　子	13.6%	33.2%	53.2%	21.7%	35.9%	42.4%
末子から2番目	6.8%	32.0%	61.3%	6.8%	29.3%	63.9%
末子から3番目	8.3%	29.2%	62.5%	23.1%	38.5%	38.5%

カブレパランチョーク郡の栄養失調児の割合は，末子から3番目の場合8.3%と少ないが，末子では13.6%に増加している。低栄養児の場合にも同じ傾向が見られる。ところが，正常児の場合には，末子から3番目の62.5%，末子から2番目の61.3%，末子の53.2%と減少している。つまり，子供数が多くなるほど，また後に生まれた子供ほど，栄養失調が多くなり，正常児が減少はることになる。これは人口学の常識にかなっている。なぜならば，子供数が多くなるほど，子供1人当たりの食料分配は減少し，親の世話も十分に行き渡らなくなるが，このような場合には，後に生まれた幼弱な子供ほど不利な状況におかれるからである。ところがダヌーシャ郡の場合には，このような傾向は明確には見られない。このような地域差の原因を探ることは，今後の課題となるであろう。また本分析は性別を考慮していないが，性別を考慮した場合，分析結果が異なってくる可能性もある。この問題も今後慎重な分析をする必要があろう。

(11) その他の指標一経口補水液（ORT）

既に疾病の項でも述べたように，ネパールでは下痢の発生がきわめて多く，抵抗力の弱い乳幼児の死亡の相当部分は下痢によるものであるといえよう。経口補水液（ORT）は，厳密にいえば下痢の治療薬ではないが，有効な対処療法である。そこでカブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡の調査対象女子人口のどの程度の割合が，経口補水液に関する情報を持っているかを知ることは，下痢に対する対応策を考察する上で重要である。そこで，ここではジーバン・ジャルを経口補水液の代表例として，ORTを聞いたことのある割合を求めた。

ORTを聞いたことのある割合＝ジーバン・ジャルについて聞いたことのある者の数÷調査対象女子人口

	カブレパランチョーク郡	ダヌーシャ郡
ＯＲＴを聞いた割合	70.5%	61.9%

以上の結果からわかるように，カブレパランチョーク郡の方が高い水準を示している。これは，第４章第５節で述べた情報の入手先と関係があるように思われる。経口補水液に関する情報の入手先は，カブレパランチョーク郡がラジオであるのに対して，ダヌーシャ郡はヘルス・ワーカーである。このことから，ラジオ等による大衆教育の方が有効であるように思われる。

注）

1） USAID & HMG, *Nepal Nutrition States Survey*, Kathmandu, 1975, p.33.

2） Kenneth Lee and Ann Mills ed., *The Economics of Health in Developing Countries*, Oxford, Oxford University Press, 1983, p.9.

3） 大塚友美「乳幼児生存仮説の検証」，『経済集志』第55巻第３号，1985年10月，67－73ページ。

4） Bakta B. Gubhaju, *Mortality*, mimeo, p.6.

5） United Nations, *World Population Prospects*, New York, 1986, p.136.

6） New ERA. *Fertility and Mortality Rates in Nepal*, Kathmandu, 1984. pp.70－79.

7） Ministry of Health, *Findings From Nepal Fertility and Family Planning Survey*, Ministry of Health, Kathmandu, p.6.

8） Kenneth Lee and Ann Mills ed., op. cit., 1983. p.9.

第６章　調査日程、調査団の構成、協力者・機関等

I　調　査　日　程

1986年8月25日	調査設計の暫定案の決定
9月1日	プリテスト用質問票作成開始
9月30日	プリテスト用質問票作成終了
10月22日	プリテスト用質問票印刷（150部）
10月23日	Scope of Work 締結
10月26日～31日	スーパーバイザー，エディターの訓練
11月5日～6日	スーパーバイザー，エディターの訓練を兼ねたプリテスト実施
11月5日～16日	カブレパランチョーク郡インタビュアー公募
11月7日～10日	質問票の修正と最終決定
11月10日	調査設計の最終決定
11月11日	質問票の印刷開始
11月12日～21日	ダヌーシャ郡インタビュアー公募
11月19日	カブレパランチョーク郡インタビュアー選考
11月20日～21日	スーパーバイザー，エディターにサンプリング等講義
	（Evaluation Division スタッフ）
11月21日	質問票の一部印刷終了（500部）
11月23日	ダヌーシャ郡インタビュアー選考
11月24日～12月6日	カブレパランチョーク郡インタビュアー訓練
12月1日～2日	フィールド訓練
11月25日	全質問票の印刷終了（5,000部）
11月25日～12月6日	ダヌーシャ郡インタビュアー訓練
12月1日～2日	フィールド訓練
12月3日	ＪＩＣＡ調査団ネパール着
12月7日	カブレパランチョーク郡，ダヌーシャ郡フィールド調査開始
12月17日	コードブック作成開始
12月25日	コーディング・シート作成開始
12月26日	コーディング・シート完成，印刷開始
12月26日	コードブック完成
12月28日	コーダー，エディター訓練
12月31日	コーディング・シート印刷終了
1987年1月1日	コーダー，エディターへのインストラクション
1月2日	コーディング，オフィス・エディティング開始

1月9日	ダヌーシャ郡フィールド調査終了
1月14日	カブレパランチョーク郡フィールド調査終了
1月16日	チェック・コーディング開始
1月22日	コーディング終了
1月23日	チェック・コーディング終了
1月25日	調査団帰国
2月1日～28日	データ入力
3月1日～31日	プログラミング，データ分析
4月1日～5月10日	データ分析結果検討，ドラフトレポート作成
4月7日～21日	NFP/MCHプロジェクト・M．ムール氏来日・調査結果討議)
5月17日～19日	ドラフト説明および討議 （団長・相良徹　於：NFP/MCHプロジェクト）
5月21日～27日	ファイナル・レポート作成
5月28日～6月13日	報告書印刷

Ⅱ　調査団メンバー

氏名・所属	担当業務	現地調査期間
相良　徹 (財)アジア人口・開発協会嘱託 （日本大学歯学部助教授）	総括・人口・公衆衛生	昭和61年12月2日～12月26日 昭和62年5月16日～5月21日
西川由比子 (財)アジア人口・開発協会研究員	人口・社会・経済	昭和61年12月2日～ 昭和62年1月26日
大塚友美 (財)アジア人口・開発協会嘱託 （日本大学経済学部助手）	人口・家族計画母子保健	昭和61年12月2日～ 昭和62年1月26日

国際協力事業団（JICA）とネパール家族計画・母子保健プロジェクト（NFP/MCHプロジェクト）は，S/Wを締結し，このS/Wに従い，JICAは，財団法人アジア人口・開発協会に本調査を委託した。国際協力事業団は，上記メンバーを組織し，NFP/MCHプロジェクトの協力を得て，調査を行い，本報告書を作成した。なお，以下の1名が下記の期間，作業管理のため，国際協力事業団から派遣された。

氏名・所属	担当業務	現地調査期間
新納　宏 国際協力事業団医療協力部医療協力特別業務室	現地調査 作業管理	昭和61年12月2日～12月11日

また，FP/MCHプロジェクトには，以下の3名が国際協力事業団専門家として派遣されており，今回の調査の協力にあたった。

氏名・所属	担当業務
綿引信義	チームリーダー代行 公衆衛生
宇井照子	母子保健
成瀬　章	業務調整

Ⅲ　スタッフ・リスト

(1) FP/MCH プロジェクト

Project chief	Dr. Tara B. Khatri
Deputy chief	Dr. Sham P. Bhattarai
	Dr. Madhav Joshi
	Dr. Pramila Sharma

Research, Planning, Evaluation Division

Acting chief	Mr. Gokarna Regmi
staff	Dr. Bhakta B. Gubhaju
〃	Mr. Muniswor Mool
〃	Mr. Tek B. Dangi
〃	Mr. Vinaya R. Dhakhwa

Service Division

Mr. Jiv K. Shrestha
Mr. Hari P. Koirala
Mr. Shyam K. Shrestha

(2) カブレパランチョーク郡

FPO　Mr. Mohon K. Joshi

(3) ダヌーシャ郡

FPO　Mr. Jagatananda P. Singh

(4) フィールドワーク

① カブレパランチョーク郡

スーパーバイザー：

1. Mr. Mohan Bhattarai	Health Educator
2. Mr. Badri Narshing K.C.	F.P.O.
3. Mr. Nabin Pyakuryal	IEC Officer

エディター：

1. Miss Bimala Manandhar	Interviewer/Coder
2. Mrs. Sabari Badan Malla	Research Assistant
3. Mr. Deepak Raj Giri	Research Assistant

インタビューアー：

女子

1. Nagina Kokh Shrestha
2. Sakuntala Shrestha
3. Rasmi Devi Kayastha
4. Indra Kumri Khatri
5. Batu Devi Adhikari
6. Saraswti Tripathi
7. Omhari Awa
8. Biku Maya Shakya
9. Krishna Maya Toujali
10. Ramila Katila
11. Dev Laxmi Shayaula
12. Reeta Bade
13. Jyotsna Khadka
14. Jwala Khadka
15. Kalpana Sipkhan

男子

16. Suresh Khatri
17. Jaddu Nath Kapali
18. Sunil Malla
19. Hemanta Bahadur Pal
20. Torna Bahadur Lawati
21. Badri Prashad Sharma
22. Amar Bahadur Sharma
23. Fanindra Bahadur Chhetri
24. Prem Bahadur Khadka

② ダヌーシャ郡

スーパーバイザー：

1.	Mrs. Indu Devkota	Section Officer
2.	Mr. Sudarsan R. Gautam	Section Officer

エディター：

1.	Mr. Durga B. Subedi	Interviewer/Coder
2.	Mr. Suman K. Sharma	〃

インタビューアー：

女子

1. Miss Binita Kumari Pokhrel
2. Mrs. Iswori Bajracharya

3. Mrs. Tank Kumari Basnet
4. Miss Bhes Kumary Adhikari

男子

5. Mr. Devi Kant Misra
6. Mr. Siweswor Mandal
7. Mr. Sudhir Kumar Sharma
8. Mr. Jiwachha Raya
9. Mr. Achyut Raj Paudyal
10. Mr. Dhaneswor Yadab
11. Mr. Narendra Kumar Upadhyaya
12. Mr. Sushil Kumar Upadhyaya
13. Mr. Amar Bhadur Nyaupane
14. Mr. Manoj Kumar Datta
15. Mr. Lila Kant Jha
16. Mr. Ram Kumar Mahatha Sudi

Ⅳ スーパーバイザー・エディター訓練日程

日　　時	項　　　目	講　　師
Day 1		
10 : 30－11 : 00	Registration	
11 : 00－11 : 30	Overview of FP/MCH, JICA Project	Mr. Watahiki
11 : 30－12 : 00	Objective of Survey and Programme Introduction	Mr. Regmi
12 : 00－01 : 00	General Introduction of Questionnaire & Technique of Interview	Mr. Dangi, Mool Dhakhwa & Dr. Gubhaju
01 : 00－01 : 30	Familarization of Questionnaire Sec. 1 H. H. Questionnaire	Mr. Dhakhwa
Day 2		
11 : 00－12 : 00	Sampling and Field Editing	Mr. Dhakhwa
12 : 00－01 : 00	Sec. 2 Socio-Economic Characteristic of the Family,	Mr. Mool
	Sec. 3 Background Information of Respondent	Mr. Mool
01 : 00－02 : 00	Tea Break	
02 : 00－04 : 30	Sec. 4 Fertility	Dr. Gubhaju
	Sec. 5 Antenatal/Postnatal Care	Mr. Dhakhwa
	Sec. 6 Family Planning	Mr. Mool
Day 3		
11 : 00－11 : 30	Sec. 7 Oral Rehydration Therapy	Mr. Dangi
11 : 30－12 : 00	Sec. 8 Immunization	Mr. Dangi & Mr. Mool
12 : 00－01 : 00	Sec. 9 Breast Feeding	Mr. Regmi
01 : 00－01 : 30	Tea Break	
01 : 30－02 : 30	Sec. 10 Nutrition and Feeding Habit	Dr. Gubhaju
02 : 30－04 : 30	Sec. 11 Mortality and Causes of Illness	Mr. Dangi & Mr. Regmi

Day 4		
11 : 00 – 01 : 00	Questionnaire Practice	All
01 : 00 – 01 : 30	Tea Break	
01 : 30 – 02 : 00	Role/Responsibility of Supervisors	Mr. Regmi
02 : 00 – 04 : 30	Questionnaire Practice/Role Play	All
Day 5	Field Practice	

V　インタビュアー訓練日程

日　　時	項　　　目
Day 1	
10：30－11：00	Registration
11：00－12：00	Overview of FP/MCH, JICA Project
12：00－01：00	Objective of survey and programme introduction
01：00－01：30	Tea Break
01：30－04：00	Introduction to Family Planning methods
Day 2	
10：30－01：00	Introduction to childhood disease and their prevention (Immunization) and treatment (Oral Rehydration Therapy and Sarbottam pitho)
01：00－01：30	Tea Break
01：30－04：00	General Introduction of questionnaire and Technique of Interview.
Day 3	
10：30－01：00	Familiarization of Questionnaire Sections 1－3.
01：00－01：30	Tea Break
01：30－04：00	Sections 4－6.
Day 4	
10：30－01：00	Sections 7－9
01：00－01：30	Tea Break
01：30－04：00	Sections 10－11.
Day 5	
10：30－01：00	Questionnaire practice (in Group)
01：00－01：30	Tea Break
01：00－04：00	Role Play (in Group)

Day 6	
10 : 30－01 : 00	Questionnaire practice (in Group)
01 : 00－01 : 30	Tea Break
01 : 30－04 : 00	Questionnaire practice (in Group)
Day 7	
10 : 30－04 : 00	Field practice
Day 8	
10 : 30－04 : 00	Field practice
Day 9	
10 : 30－01 : 00	Group Discussion on Field practice
01 : 00－01 : 30	Tea Break
01 : 30－04 : 00	General Discussion and Review
Day 10	
10 : 30－01 : 00	Final Review (in Group)
01 : 00－01 : 30	Tea Break
01 : 30－04 : 00	Preparation for Field work

Ⅵ フィールド調査日程

(1) カブレパランチョーク郡

パンチャヤート名	開始日	終了日	チーム名	スーパーバイザー名
1. Bhumlutar	1986. 12. 7	1986. 12. 18	B	Mr. Nabin P.
2. Gothpani Chour	1986. 12. 7	1986. 12. 16	A	Mr. Badri N.K.C.
3. Sallye Mulabari	1986. 12. 7	1986. 12. 15	C	Mr. Mohah Bhattarai
4. Balthali	1986. 12. 19	1986. 12. 28	A	Mr. Badri N.K.C.
5. Chalal Ganeshthan	1986. 12. 16	1986. 12. 29	B	Mr. Nabin P.
6. Sunthan Sarada	1986. 12. 17	1987. 1. 1	C	Mr. Mohan Bhattarai
7. Dapcha Chatrebanjh	1986. 12. 29	1987. 1. 6	A	Mr. Badri N.K.C.
8. Khanalthock	1986. 12. 30	1987. 1. 7	B	Mr. Nabin P.
9. Nayagaun Deupur	1987. 1. 2	1987. 1. 9	C	Mr. Mohan Bhattarai
10. Ugrachandi Nala	1987. 1. 7	1987. 1. 14	A+B+C	

(2) ダヌーシャ郡

パンチャヤート名	開始日	終了日	チーム名	スーパーバイザー名
1. Mithileswor Mahrubhi	1986. 12. 7	1986. 12. 14	A	Mrs. Indu Devkota
2. Sabaila	1986. 12. 7	1986. 12. 12	B	Mr. S.R. Gautam
3. Kajara Ramol	1986. 12. 15	1986. 12. 18	A	Mrs. Indu Devkota
4. Balabakhar	1986. 12. 13	1986. 12. 19	B	Mr. S.R. Gautam
5. Bhutahi Paterba	1986. 12. 19	1986. 12. 25	A	Mrs. Indu Devkota
6. Raghunathpur	1986. 12. 20	1986. 12. 24	B	Mr. S.R. Gautam
7. Devapura Rupaitha	1986. 12. 26	1987. 1. 1	A	Mrs. Indu Devkota
8. Bharatpur	1987. 12. 25	1987. 1. 1	B	Mr. S.R. Gautam
9. Lohana	1987. 1. 2	1987. 1. 9	A	Mrs. Indu Devkota
10. Uma Prempur	1987. 1. 2	1987. 1. 9	B	Mr. S.R.Gautam

付　録

集 計 表
調 査 票

Table 1 : Population Distribution by Age, Sex and Marital Status

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE	MALE TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H	FEMALE TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H	TOTAL TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H
		EVER MARRIED?		CURRENT MARITAL STATUS							EVER MARRIED?		CURRENT MARITAL STATUS							EVER MARRIED?		CURRENT MARITAL STATUS						
0	151	128	–	23	151	–	–	–	–	146	110	1	35	145	1	–	–	–	297	238	1	58	296	1	–	–	–
1 ~ 4	533	383	1	149	531	–	2	–	–	499	350	1	148	496	1	2	–	–	1,032	733	2	297	1,027	1	4	–	–
5 ~ 9	617	425	1	193	613	1	3	–	–	638	422	–	216	635	–	3	–	–	1,255	845	1	409	1,248	1	6	–	–
10 ~ 14	605	19	12	574	555	10	40	–	–	576	6	13	557	525	12	39	–	–	1,181	25	25	1,131	1,080	22	79	–	–
15 ~ 19	408	–	61	347	323	61	25	–	–	473	3	162	308	234	161	15	2	1	881	3	223	655	616	222	40	2	1
20 ~ 24	320	4	193	123	122	189	7	–	2	401	4	341	58	57	339	3	–	2	721	8	534	179	179	525	10	–	4
25 ~ 29	250	1	212	37	37	205	7	–	1	317	3	303	11	12	299	–	4	2	567	4	515	48	49	504	7	4	3
30 ~ 34	217	1	203	13	12	201	2	–	2	261	4	248	9	8	237	–	9	7	478	5	451	22	20	438	2	9	9
35 ~ 39	201	3	193	5	6	189	3	–	3	237	6	228	3	4	211	–	17	5	438	9	421	8	10	400	3	17	8
40 ~ 44	225	2	217	6	7	214	3	–	1	227	8	208	11	8	188	1	29	1	452	10	425	17	15	402	4	29	2
45 ~ 49	162	1	159	2	1	153	7	–	1	135	5	128	2	2	99	2	28	4	297	6	287	4	3	252	9	28	5
50 ~ 54	170	3	165	2	3	148	17	–	2	227	9	212	6	3	170	1	50	3	397	12	377	8	6	318	18	50	5
55 ~ 59	127	2	121	4	4	110	13	–	–	104	4	97	3	2	57	1	39	5	231	6	218	7	6	167	14	39	5
60 ~ 64	90	–	89	1	1	79	9	1	–	135	6	125	4	3	75	–	56	1	225	6	214	5	4	154	9	57	1
65 +	188	6	180	2	1	125	55	5	1	169	11	156	2	5	55	3	105	1	357	17	336	4	6	181	58	110	2
UNKNOWN	6	1	3	2	1	2	2	–	1	5	1	4	–	1	–	–	4	–	11	2	7	2	2	2	2	4	1
TOTAL	4,270	971	1,810	1,483	2,367	1,688	195	6	14	4,550	952	2,227	1,371	2,200	1,905	70	343	32	8,820	1,923	4,037	2,854	4,567	3,593	265	349	46

DISTRICT : DHANUSA

AGE	MALE TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H	FEMALE TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H	TOTAL TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H
		EVER MARRIED?		CURRENT MARITAL STATUS							EVER MARRIED?		CURRENT MARITAL STATUS							EVER MARRIED?		CURRENT MARITAL STATUS						
0	120	114	–	6	120	–	–	–	–	132	122	–	10	129	–	3	–	–	252	236	–	16	249	–	3	–	–
1 ~ 4	521	462	–	59	515	–	6	–	–	506	446	–	60	497	–	9	–	–	1,027	908	–	119	1,012	–	15	–	–
5 ~ 9	629	583	1	105	674	1	24	–	–	606	534	6	66	595	6	5	–	–	1,235	1,117	7	171	1,269	7	19	–	–
10 ~ 14	513	19	13	481	446	11	56	–	–	414	9	56	349	307	56	51	–	–	927	28	69	830	753	67	107	–	–
15 ~ 19	304	3	76	225	202	75	27	–	–	259	2	195	62	49	194	15	–	1	563	5	271	287	251	269	42	–	1
20 ~ 24	275	1	198	73	71	195	7	1	1	374	1	365	8	8	366	–	–	–	649	2	563	81	79	561	7	1	1
25 ~ 29	378	–	343	35	27	332	15	–	4	356	–	351	5	5	346	–	3	2	734	–	694	40	32	678	15	3	6
30 ~ 34	290	–	283	7	4	277	6	1	2	320	–	319	1	1	311	1	6	1	610	–	602	8	5	588	7	7	3
35 ~ 39	327	–	322	5	3	318	4	2	–	223	–	223	–	1	209	–	14	–	550	–	545	5	4	526	4	16	–
40 ~ 44	188	–	185	1	1	176	8	1	–	177	1	176	–	–	165	–	12	2	365	1	361	1	1	341	8	13	2
45 ~ 49	167	2	165	–	2	156	8	1	–	128	2	126	–	–	101	–	26	1	295	4	291	–	2	257	8	27	1
50 ~ 54	147	–	147	–	–	135	9	2	1	232	2	229	1	2	183	1	45	1	379	2	376	1	2	318	10	47	2
55 ~ 59	139	–	138	1	1	128	8	2	–	132	1	129	2	–	96	2	34	–	271	1	267	3	1	224	10	36	–
60 ~ 64	153	–	152	1	–	134	14	4	1	118	4	113	1	1	49	2	66	–	271	4	265	2	1	183	16	70	1
65 +	130	1	128	1	–	110	20	–	–	105	2	101	2	1	26	1	77	–	235	3	229	3	1	136	21	77	–
UNKNOWN	4	1	2	1	2	1	1	–	–	2	–	2	–	–	2	–	–	–	6	1	4	1	2	3	1	–	–
TOTAL	4,343	1,186	2,153	1,004	2,058	2,049	203	14	9	4,084	1,126	2,331	567	1,556	2,107	90	283	8	8,427	2,312	4,544	1,571	3,664	4,156	293	297	17

A ; Inapplicable, B ; Married, C ; Unmarried, D ; Inapplicable, E ; Currently Married, F : Widower, G : Widow,
H : Divorce/Separated

Table 2: Distribution by Type of Family and Number of Persons in the Family

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

FAMILY SIZE	FAMILY TYPE NUCLEAR	STEM	JOINT	UNKNOWN	TOTAL
1	60	1	–	1	62
2	106	14	2	1	123
3	112	21	8	2	143
4	151	41	11	1	204
5	164	66	25	1	256
6	127	78	32	–	237
7	90	56	31	–	177
8	44	60	34	–	138
9	18	30	24	–	72
10	7	23	22	–	52
11	1	7	16	–	24
12	1	4	15	–	20
13	–	2	9	–	11
14	1	3	5	–	9
15	–	–	2	–	2
16	1	–	3	–	4
17	–	1	3	–	4
18	–	–	–	–	–
19	–	–	1	–	1
20	–	–	–	–	–
21	–	–	1	–	1
22	–	–	1	–	1
23	–	–	1	–	1
24	–	–	1	–	1
25	–	–	–	–	–
26	–	–	1	–	1
27	–	–	–	–	–
28	–	–	–	–	–
29	–	–	–	–	–
30	–	–	–	–	–
UNKNOWN	–	–	–	49	49
TOTAL	883	407	248	55	1,593

DISTRICT : DHANUSA

FAMILY SIZE	FAMILY TYPE NUCLEAR	STEM	JOINT	UNKNOWN	TOTAL
1	35	–	–	4	39
2	115	7	2	2	126
3	190	29	2	–	221
4	168	75	11	–	254
5	175	85	23	–	283
6	131	102	16	–	249
7	49	80	35	1	165
8	15	38	35	–	88
9	7	28	26	–	61
10	1	17	18	–	36
11	–	7	17	–	24
12	–	5	8	–	13
13	–	1	4	–	5
14	–	2	4	–	6
15	–	–	5	–	5
16	–	–	–	–	–
17	–	–	3	–	3
18	–	–	1	–	1
19	–	–	1	–	1
20	–	–	–	–	–
21	–	–	–	–	–
22	–	1	–	–	1
23	–	–	1	–	1
24	–	–	–	–	–
25	–	–	–	–	–
26	–	–	1	–	1
27	–	–	–	–	–
28	–	–	–	–	–
29	–	–	–	–	–
30	–	–	–	–	–
UNKNOWN	–	–	–	31	31
TOTAL	886	477	213	38	1,614

Table 3 : Distribution of Head of the Household by Educational Attainment and Occupation

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

EDUCATION OF H.H.	TOTAL	OCCUPATION A	B	C	D	E	F	G	H
INAPPLICABLE	693	24	566	38	10	8	31	8	8
ONE YEAR	570	14	405	29	68	26	7	18	3
TWO YEARS	16	–	12	2	1	1	–	–	–
THREE YEARS	28	–	21	1	2	4	–	–	–
FOUR YEARS	30	–	20	2	5	2	1	–	–
FIVE YEARS	31	–	18	1	8	3	–	1	–
SIX YEARS	20	–	13	1	1	3	–	1	1
SEVEN YEARS	28	–	20	1	5	2	–	–	–
EIGHT YEARS	26	–	16	–	2	8	–	–	–
NINE YEARS	8	–	6	–	1	1	–	–	–
TEN YEARS OR S.L.C	65	1	19	–	38	6	1	–	–
I.A.	16	–	1	–	14	1	–	–	–
B.A.	7	–	–	–	7	–	–	–	–
M.A.	–	–	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	55	–	5	1	–	–	–	–	49
TOTAL	1,593	39	1,122	76	162	65	40	28	61

DISTRICT : DHANUSA

EDUCATION OF H.H.	TOTAL	OCCUPATION A	B	C	D	E	F	G	H
INAPPLICABLE	1,116	24	468	565	6	34	7	5	7
ONE YEAR	257	2	161	42	10	32	2	5	3
TWO YEARS	12	–	8	3	–	1	–	–	–
THREE YEARS	15	–	8	4	–	3	–	–	–
FOUR YEARS	18	–	14	1	1	2	–	–	–
FIVE YEARS	17	–	10	5	1	1	–	–	–
SIX YEARS	17	–	8	3	2	3	–	–	1
SEVEN YEARS	28	–	20	2	4	1	–	1	–
EIGHT YEARS	14	1	7	2	2	2	–	–	–
NINE YEARS	9	–	8	–	1	–	–	–	–
TEN YEARS OR S.L.C	56	1	27	2	17	7	1	1	–
I.A.	13	–	6	–	5	1	–	–	1
B.A.	5	–	2	–	3	–	–	–	–
M.A.	1	–	–	–	1	–	–	–	–
NOT STATED	36	–	1	1	–	–	–	–	34
TOTAL	1,614	28	748	630	53	87	10	12	46

A : No Job, B : Agriculture, C : Labour, D : Service, E : Business, F : House Work, G : Others
H : Not Stated

Table 4 : Distribution of Household by Possession of Land, Source of Drinking Water and Availability of Latrine

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

		WATER									LATRINE		
ROPANIES	TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
0	34	13	–	16	–	–	1	–	–	4	5	24	5
1 ~ 4	486	156	37	185	1	3	77	2	25	–	80	406	–
5 ~ 9	366	140	29	143	–	–	42	–	12	–	74	290	2
10 ~ 14	230	74	14	102	–	–	36	1	2	1	60	170	–
15 ~ 19	153	60	15	49	–	–	26	1	2	–	26	127	–
20 ~ 24	87	32	7	36	–	–	11	1	–	–	20	67	–
25 ~ 29	53	12	5	24	–	–	9	1	2	–	17	36	–
30 ~ 34	37	10	1	16	–	–	9	–	1	–	13	24	–
35 ~ 39	15	4	–	7	–	1	1	–	2	–	2	13	–
40 ~ 44	29	12	–	13	–	1	2	–	1	–	8	21	–
45 ~ 49	6	–	–	4	–	–	2	–	–	–	–	6	–
50 ~ 54	15	6	1	5	–	–	3	–	–	–	3	12	–
55 ~ 59	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
60 ~ 64	7	4	–	1	–	–	2	–	–	–	–	7	–
65 ~ 69	5	–	–	4	–	–	1	–	–	–	–	5	–
70 ~ 74	3	1	–	2	–	–	–	–	–	–	2	1	–
75 ~ 79	2	1	–	1	–	–	–	–	–	–	1	1	–
80 ~ 84	3	1	–	2	–	–	–	–	–	–	2	1	–
85 ~ 89	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
90 ~ 94	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
95 ~ 97	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
98	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
99	59	1	–	4	–	–	3	–	1	50	–	9	50
TOTAL	1,593	530	109	614	1	5	225	6	48	55	313	1,223	57

A : Kuwa
B : Khola
C : Kaldhara
D : Pokhari
E : Tubewell
F : Dhungedhara
G : Inar
H : Others
I : Not Stated
J : Yes
K : No
L : Not Stated

DISTRICT : DHANUSA

		WATER									LATRINE		
ROPANIES	TOTAL	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
0	443	–	6	–	–	239	1	184	11	2	1	436	6
1 ~ 4	318	2	–	21	–	128	1	151	14	1	1	316	1
5 ~ 9	222	2	4	4	–	95	1	104	12	–	1	218	3
10 ~ 14	156	2	4	7	–	72	–	67	4	–	5	150	1
15 ~ 19	50	–	–	–	–	27	1	21	1	–	1	49	–
20 ~ 24	61	1	3	1	–	26	–	30	–	–	–	61	–
25 ~ 29	98	1	5	2	–	33	1	53	2	1	4	93	1
30 ~ 34	40	1	–	–	–	10	–	27	2	–	2	37	1
35 ~ 39	69	1	2	1	–	39	1	25	–	–	7	62	–
40 ~ 44	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
45 ~ 49	3	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	3	–
50 ~ 54	41	1	1	2	–	19	–	18	–	–	6	35	–
55 ~ 59	2	–	–	–	–	1	–	1	–	–	1	1	–
60 ~ 64	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–
65 ~ 69	23	–	–	2	–	9	1	11	–	–	4	19	–
70 ~ 74	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
75 ~ 79	12	–	–	–	–	8	–	4	–	–	3	9	–
80 ~ 84	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
85 ~ 89	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
90 ~ 94	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
95 ~ 97	35	–	–	–	–	16	–	19	–	–	11	24	–
98	3	–	–	–	–	–	–	2	1	–	–	3	–
99	37	–	–	–	–	2	–	1	–	34	–	3	34
TOTAL	1,614	11	25	41	–	727	7	718	47	38	47	1,520	47

Table 5 : Distribution of Eligible Women by 5 Year Age Group, Literacy and Educational Attainment

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE	READ & WRITE: NO	READ & WRITE: NOT STATED	SCHOOL: YES	SCHOOL: NO	YEARS OF SCHOOLING: 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (S.L.C.)	I.A.	B.A.	M.A.+	NOT STATED
~14	3	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	114	–	15	3	116	–	3	3	3	1	–	1	1	–	3	–	–	–	1
20 ~ 24	243	–	23	6	250	1	2	3	4	3	4	–	1	–	4	–	–	–	–
25 ~ 29	260	–	20	8	268	–	2	3	4	5	2	–	–	2	2	–	–	–	1
30 ~ 34	219	–	9	3	224	–	–	2	1	1	1	1	1	1	1	–	–	–	–
35 ~ 39	179	–	4	9	188	1	1	–	1	1	–	–	–	1	–	–	–	–	1
40 ~ 44	170	1	1	2	176	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
45 ~ 49	85	–	1	–	85	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
50+	3	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	3	83	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	83
TOTAL	1,279	84	73	31	1,316	4	8	11	14	11	7	2	3	4	10	–	–	–	88

DISTRICT : DHANUSA

AGE	READ & WRITE: NO	READ & WRITE: NOT STATED	SCHOOL: YES	SCHOOL: NO	YEARS OF SCHOOLING: 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (S.L.C.)	I.A.	B.A.	M.A.+	NOT STATED
~14	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	124	–	13	–	124	–	2	2	3	1	2	1	–	1	1	–	–	–	–
20 ~ 24	259	–	21	3	260	–	1	3	1	4	3	6	1	–	2	–	–	–	–
25 ~ 29	293	–	10	1	294	1	–	2	–	2	1	2	–	2	–	1	–	–	–
30 ~ 34	267	–	11	3	269	–	2	2	2	1	1	1	–	–	1	–	–	–	1
35 ~ 39	188	1	5	2	190	–	1	–	2	1	–	1	–	–	1	–	–	–	–
40 ~ 44	132	–	4	2	142	–	–	1	1	1	–	1	–	–	–	–	–	–	1
45 ~ 49	94	–	1	1	95	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
50+	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	3	32	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	32
TOTAL	1,361	33	65	12	1,378	1	6	10	9	11	7	12	1	3	5	1	–	–	34

Table 6 : Distribution of Eligible Women by 5 Year Age Group and Occupation

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE	TOTAL	OCCUPATION A	B	C	D	E	F	G	H	I
~14	3	–	3	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	132	1	115	–	2	1	13	–	–	–
20 ~ 24	272	–	244	2	1	1	23	1	–	–
25 ~ 29	289	–	256	1	2	–	29	1	–	–
30 ~ 34	233	–	205	3	–	5	20	–	–	–
35 ~ 39	194	2	174	2	–	6	10	–	–	–
40 ~ 44	179	5	158	1	–	5	9	–	–	1
45 ~ 49	87	–	78	1	–	3	5	–	–	–
50+	3	–	3	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	86	–	2	–	–	–	1	–	–	83
TOTAL	1,478	8	1,238	10	5	21	110	2	–	84

DISTRICT : DHANUSA

AGE	TOTAL	OCCUPATION A	B	C	D	E	F	G	H	I
~14	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–
15 ~ 19	137	–	3	10	1	2	121	–	–	–
20 ~ 24	281	–	10	21	1	–	246	–	1	2
25 ~ 29	305	1	3	26	–	–	274	–	–	1
30 ~ 34	280	–	9	26	2	3	237	2	–	1
35 ~ 39	196	–	4	14	1	3	174	–	–	–
40 ~ 44	147	8	3	20	1	–	114	–	–	1
45 ~ 49	96	–	3	6	–	3	83	1	–	–
50+	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	35	–	–	–	–	–	3	–	–	32
TOTAL	1,478	9	35	123	6	11	1,253	3	1	37

A : No Job, B : Agriculture, C : Labour, D : Service, E : Business, F : House Work, G : Others, H : Don't Know, I : Not Stated

Table 7 : Distribution of Respondents' Husbands by 5 Year Age Group, Literacy and Educational Attainment

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE OF HUSBAND	READ & WRITE			SCHOOL		YEARS OF SCHOOLING															
	NO	DON'T KNOW	NOT STATED	YES	NO	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (S.L.C.)	I.A.	B.A.	M.A.+	NOT STATED
~14	–	–	–	1	–	6	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	9	–	–	38	3	12	–	1	6	5	6	–	5	2	4	8	–	–	–	1
20 ~ 24	36	–	1	140	22	61	2	6	22	9	11	4	11	8	7	53	5	–	–	3
25 ~ 29	50	–	–	139	27	80	5	8	14	13	12	7	9	11	5	41	8	2	–	3
30 ~ 34	59	–	–	103	47	104	6	9	7	5	9	4	6	15	5	25	10	2	–	3
35 ~ 39	64	–	–	78	58	123	3	4	6	11	8	3	7	7	1	18	5	3	–	4
40 ~ 44	71	–	–	63	78	152	3	4	2	7	11	9	5	10	–	6	1	1	–	3
45 ~ 49	59	–	–	20	52	111	3	1	–	3	2	2	2	–	–	4	1	1	–	2
50+	60	–	–	22	64	126	1	–	3	2	5	1	–	3	1	3	1	–	–	2
NOT STATED	3	–	84	4	3	6	–	1	–	–	1	–	–	1	–	–	1	–	–	84
TOTAL	413	–	85	608	354	781	23	34	60	55	66	30	45	57	23	158	32	9	–	105

DISTRICT : DHANUSA

AGE OF HUSBAND	READ & WRITE			SCHOOL		YEARS OF SCHOOLING															
	NO	DON'T KNOW	NOT STATED	YES	NO	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (S.L.C.)	I.A.	B.A.	M.A.+	NOT STATED
~14	1	–	–	–	–	9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	16	–	–	14	–	16	–	1	1	2	–	1	–	2	1	6	–	–	–	–
20 ~ 24	80	–	–	47	3	83	1	2	2	4	3	2	3	1	2	22	3	1	–	1
25 ~ 29	156	–	–	88	7	163	–	8	7	4	9	7	4	4	2	36	5	2	–	2
30 ~ 34	186	–	–	74	7	195	1	1	3	10	6	7	14	3	4	16	6	–	1	1
35 ~ 39	192	–	–	77	24	220	1	4	5	8	6	6	6	6	4	14	10	3	–	2
40 ~ 44	105	–	–	38	15	121	2	4	2	3	5	1	7	1	1	5	4	1	–	1
45 ~ 49	99	–	–	26	15	114	1	4	–	1	1	1	6	1	2	5	–	2	–	1
50+	121	–	–	20	12	133	3	1	2	1	1	–	1	1	1	6	–	–	–	3
NOT STATED	8	–	33	2	–	8	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–	–	33
TOTAL	964	–	33	386	83	1,062	9	25	22	33	31	25	41	20	17	111	28	9	1	44

Table 8 : Distribution of Respondents' Husbands by Occupation

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE OF HUSBAND	TOTAL	OCCUPATION OF HUSBAND								
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
~14	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	50	8	29	1	6	1	3	2	–	–
20 ~ 24	202	10	117	9	52	9	1	2	–	2
25 ~ 29	218	3	128	17	58	7	1	3	–	1
30 ~ 34	210	1	127	13	55	9	–	4	–	1
35 ~ 39	203	3	135	14	40	8	–	3	–	–
40 ~ 44	214	1	163	10	24	13	–	3	–	–
45 ~ 49	132	–	103	3	17	5	–	2	–	2
50+	148	2	112	4	18	7	3	1	–	1
NOT STATED	100	6	7	1	2	–	–	–	–	84
TOTAL	1,478	34	922	72	272	59	8	20	–	91

DISTRICT : DHANUSA

AGE OF HUSBAND	TOTAL	OCCUPATION OF HUSBAND								
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
~14	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	30	5	10	12	–	3	–	–	–	–
20 ~ 24	130	4	50	58	6	8	1	2	–	1
25 ~ 29	253	5	112	93	25	15	1	1	–	1
30 ~ 34	268	3	105	128	14	15	–	3	–	–
35 ~ 39	295	3	135	108	20	24	2	2	–	1
40 ~ 44	158	1	86	50	9	8	1	3	–	–
45 ~ 49	139	1	79	42	7	10	–	–	–	–
50+	153	1	97	45	–	6	2	1	–	1
NOT STATED	52	9	4	4	2	–	–	–	–	33
TOTAL	1,478	32	678	540	83	89	7	12	–	37

A : No Job, B : Agriculture, C : Labour, D : Service, E : Business, F : House Work, G : Others, H : Don't Know, I : Not Stated

Table 9 : Age at Marriage and Number of Years of Cohabitation of Respondents by Education

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

		AGE AT MARRIAGE												LIVE TOGETHER											
EDUCATION	TOTAL	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	MEAN	TOTAL	0	1	2	3	4	5	6	7	8	99	MEAN
READ & WRITE																									
NO	845	33	34	52	84	86	141	116	97	101	48	53	15.42	1,279	1,171	19	15	15	19	7	5	5	1	22	0.22
NOT STATED	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	84	–	–	–	–	–	–	–	–	–	84	–
SCHOOL																									
YES	32	–	2	3	5	–	6	6	6	2	1	1	15.19	73	70	–	–	–	1	–	–	–	–	2	0.06
NO	18	1	–	–	1	3	1	3	2	3	3	1	16.28	31	28	–	–	–	–	–	–	1	1	1	0.50

DISTRICT : DHANUSA

		AGE AT MARRIAGE												LIVE TOGETHER											
EDUCATION	TOTAL	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	MEAN	TOTAL	0	1	2	3	4	5	6	7	8	99	MEAN
READ & WRITE																									
NO	946	231	38	150	80	127	126	84	33	35	10	32	13.32	1,361	543	170	163	115	78	108	45	36	29	74	1.90
NOT STATED	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	10.00	33	–	–	–	–	–	1	–	–	–	32	5.00
SCHOOL																									
YES	38	3	3	2	4	2	9	8	1	3	3	–	14.63	65	54	8	1	1	–	–	–	1	–	–	0.31
NO	7	2	–	3	–	1	–	–	–	1	–	–	12.57	12	6	–	2	2	–	1	1	–	–	–	1.75

Table 10 : Number of Live Births of Last Year of Respondents by 5 Year Age Group and Age Specific Fertility Rate, and Proportion of Respondents Who Are Currently Pregnant by 5 Year Age Group.

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

A : Inapplicalbe
B : Yes
C : No

	NO. OF LIVE BIRTHS LAST YEAR					PREGNANCY			
AGE	TOTAL	A	B	C	ASFR	YES	NO	DON'T KNOW	NOT STATED
~14	2	1	1	–	0.50	–	1	–	1
15 ~ 19	128	102	25	1	0.21	21	103	3	4
20 ~ 24	271	190	80	1	0.30	46	221	2	1
25 ~ 29	287	200	86	1	0.31	43	237	4	–
30 ~ 34	232	190	42	–	0.18	28	201	–	–
35 ~ 39	194	163	30	1	0.16	14	177	2	–
40 ~ 44	176	162	13	1	0.09	5	164	1	3
45 ~ 49	87	84	3	–	0.03	–	86	–	–
50+	3	2	1	–	0.33	–	3	–	–
NOT STATED	3	2	1	–	0.33	–	3	–	83
TOTAL	1,383	1,096	282	5	0.21	157	1,196	12	92

DISTRICT : DHANUSA

	NO. OF LIVE BIRTHS LAST YEAR					PREGNANCY			
AGE	TOTAL	A	B	C	ASFR	YES	NO	DON'T KNOW	NOT STATED
~14	1	1	–	–	–	–	1	–	–
15 ~ 19	130	114	16	–	0.12	14	110	1	6
20 ~ 24	281	216	64	1	0.23	35	241	5	–
25 ~ 29	305	233	70	2	0.24	32	270	1	1
30 ~ 34	278	229	48	1	0.18	23	254	1	1
35 ~ 39	195	174	21	–	0.11	18	176	1	–
40 ~ 44	141	133	8	–	0.06	2	133	1	6
45 ~ 49	96	91	5	–	0.05	2	94	–	–
50+	–	–	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	3	3	–	–	–	–	3	–	32
TOTAL	1,430	1,194	232	4	0.17	126	1,282	10	46

Table 11 : Number of Live Births, Currently Living Children, Miscarriages and Still Births by 5 Year Age Group of Respondents

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE	LIVE BIRTH 0	1	2	3	4	5	6	7	NO. OF CURRENTLY LIVING CHILDREN 0	1	2	3	4	5	6	7
-14	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
15 ~ 19	88	34	6	1	-	-	-	-	86	34	6	1	-	-	-	-
20 ~ 24	65	95	77	24	8	1	1	-	60	103	67	17	3	-	-	-
25 ~ 29	13	36	73	65	57	31	11	1	17	46	86	85	38	13	2	-
30 ~ 34	5	4	19	47	64	37	29	13	5	14	33	65	64	27	17	6
35 ~ 39	7	6	7	21	28	35	38	21	8	7	17	37	38	43	26	14
40 ~ 44	7	4	4	20	14	24	28	27	9	7	10	28	27	41	25	19
45 ~ 49	1	-	7	11	5	12	8	15	3	1	14	11	14	17	11	8
50+	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1
NOT STATED	-	1	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-
TOTAL	185	180	195	183	177	142	115	77	209	214	231	244	185	143	81	43

AGE	MISCARRIAGE 0	1	2	3	4	5	6	7	STILL BIRTH 0	1	2	3	4	5	6	7
-14	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
15 ~ 19	127	1	-	-	-	-	-	-	126	1	1	-	-	-	-	-
20 ~ 24	257	13	1	-	-	-	-	-	262	7	1	-	-	-	-	-
25 ~ 29	258	25	5	1	-	-	-	-	277	8	4	-	-	-	-	-
30 ~ 34	209	16	5	1	1	-	-	1	215	14	3	1	-	-	-	-
35 ~ 39	159	23	7	4	-	-	-	-	179	15	-	-	-	-	-	-
40 ~ 44	134	26	8	6	1	1	-	-	161	9	5	1	-	-	-	-
45 ~ 49	71	11	4	-	1	-	-	-	80	4	2	-	1	-	-	-
50+	1	2	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
NOT STATED	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	1,220	117	31	12	3	1	-	1	1,307	58	17	2	1	-	-	-

DISTRICT : DHANUSA

AGE	LIVE BIRTH 0	1	2	3	4	5	6	7	NO. OF CURRENTLY LIVING CHILDREN 0	1	2	3	4	5	6	7
-14	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
15 ~ 19	84	37	7	2	1	-	-	-	89	39	3	-	1	-	-	-
20 ~ 24	73	107	63	22	12	1	2	-	87	113	58	21	1	-	1	-
25 ~ 29	26	40	70	87	46	25	8	2	35	60	83	86	34	6	1	-
30 ~ 34	12	18	40	53	64	44	24	15	18	26	61	74	66	25	8	1
35 ~ 39	5	8	18	22	42	39	26	22	6	21	25	52	44	23	14	5
40 ~ 44	9	-	7	15	18	27	24	21	14	3	19	24	34	25	12	3
45 ~ 49	1	1	8	8	10	22	22	13	2	3	17	22	24	14	11	2
50+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
NOT STATED	2	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
TOTAL	212	211	214	209	193	159	106	73	253	264	267	279	205	98	47	17

AGE	MISCARRIAGE 0	1	2	3	4	5	6	7	STILL BIRTH 0	1	2	3	4	5	6	7
-14	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
15 ~ 19	129	2	-	-	-	-	-	-	131	-	-	-	-	-	-	-
20 ~ 24	264	15	2	-	-	-	-	-	268	9	2	-	1	1	-	-
25 ~ 29	284	11	7	2	-	-	-	-	297	5	2	-	-	-	-	-
30 ~ 34	249	23	4	3	-	-	-	-	257	13	5	1	1	-	1	1
35 ~ 39	178	14	2	2	-	-	-	-	184	9	2	1	-	-	-	-
40 ~ 44	131	9	1	-	-	-	-	-	126	13	2	-	-	-	-	-
45 ~ 49	90	3	3	-	-	-	-	-	88	5	2	-	1	-	-	-
50+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
NOT STATED	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	1,329	77	19	7	-	-	-	-	1,355	54	15	2	3	1	1	1

Table 12 : Distribution of Respondents Who Are Currently Pregnant by Their Preference for The Place of Delivery

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

PLACE OF DELIVERY	PREGNANCY YES	(%)	NO	DON'T KNOW	NOT STATED
0	2	(1.3)	1,191	12	–
HOSPITAL	8	(5.1)	–	–	–
HEALTH POST	–	(–)	2	–	–
AT HOME	138	(87.9)	3	–	–
OTHERS	–	(–)	–	–	–
NOT STATED	9	(5.7)	–	–	92
TOTAL	157	(100.0)	1,196	12	92

DISTRICT : DHANUSA

PLACE OF DELIVERY	PREGNANCY YES	(%)	NO	DON'T KNOW	NOT STATED
0	–	(–)	1,281	10	–
HOSPITAL	1	(0.8)	–	–	–
HEALTH POST	3	(2.4)	1	–	–
AT HOME	111	(88.1)	–	–	–
OTHERS	–	(–)	–	–	–
NOT STATED	11	(8.7)	–	–	46
TOTAL	126	(100.0)	1,282	10	46

Table 13 : Ideal Number of Children (Sons and Daughters) by 5 Year Age Group of Respondents

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

AGE	IDEAL NO. OF CHILDREN								IDEAL NO. OF SONS								IDEAL NO. OF DAUGHTERS							
	0	1	2	3	4	5	6	7	0	1	2	3	4	5	6	7	0	1	2	3	4	5	6	7
~14	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	1	2	46	53	19	5	2	–	1	47	73	6	1	–	–	–	3	98	24	3	–	–	–	–
20 ~ 24	–	4	86	130	44	4	1	–	1	77	184	5	2	–	–	1	25	188	55	1	–	–	–	1
25 ~ 29	1	5	92	125	51	10	4	–	2	89	179	16	3	–	–	–	27	194	61	7	–	–	–	–
30 ~ 34	1	1	53	89	70	10	3	1	1	55	153	18	4	–	–	1	14	127	79	8	3	–	–	1
35 ~ 39	–	1	58	67	50	9	6	2	1	53	120	15	3	1	1	–	10	119	54	8	1	–	–	1
40 ~ 44	2	2	39	71	50	4	4	2	1	38	123	10	1	1	–	–	13	99	53	7	1	1	–	–
45 ~ 49	1	–	16	31	31	5	2	1	–	17	59	9	1	1	–	–	–	50	33	3	–	1	–	–
50+	–	–	1	1	1	–	–	–	–	1	2	–	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–
UNKNOWN	–	–	1	1	–	1	–	–	–	1	1	1	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–
TOTAL	6	15	392	570	316	48	22	6	7	378	896	80	15	3	1	2	92	881	361	37	5	2	–	3

DISTRICT : DHANUSA

AGE	IDEAL NO. OF CHILDREN								IDEAL NO. OF SONS								IDEAL NO. OF DAUGHTERS							
	0	1	2	3	4	5	6	7	0	1	2	3	4	5	6	7	0	1	2	3	4	5	6	7
~14	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
15 ~ 19	4	1	12	84	26	1	1	–	4	10	98	16	–	–	–	–	7	103	16	2	1	–	–	–
20 ~ 24	–	1	37	179	49	7	1	3	–	29	213	24	7	3	–	3	17	224	32	2	1	–	–	3
25 ~ 29	1	6	28	169	79	12	2	2	4	31	222	33	7	2	1	1	17	217	59	5	2	–	–	1
30 ~ 34	2	5	25	137	87	15	4	–	1	26	194	45	8	2	1	–	9	188	71	5	4	–	–	–
35 ~ 39	–	1	18	113	50	12	1	–	–	22	138	32	3	–	–	–	8	141	45	1	–	–	–	–
40 ~ 44	4	–	6	79	38	10	1	2	4	8	97	25	5	1	–	1	8	96	33	2	–	1	–	1
45 ~ 49	–	3	7	48	25	11	1	–	1	7	64	18	4	1	–	–	1	69	21	4	–	–	–	–
50+	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
UNKNOWN	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–
TOTAL	11	17	133	811	355	68	11	7	14	133	1,029	193	34	9	2	5	67	1,040	278	21	8	1	–	5

Table 14 : Mean and Currently Living Number of Children and Mean and Desired Number of Children by Educational Level of Respondents

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

EDUCATION	NO. OF CURRENTLY LIVING CHILDREN										DESIRED NO. OF CHILDREN										
	TOTAL	0	1	2	3	4	5	6	7+	MEAN	TOTAL	0	1	2	3	4	5	6	7	MEAN	DIFFERENCE
READ & WRITE																					
NO	1,275	178	191	226	219	172	139	76	74	2.90	1,266	5	14	353	519	301	46	22	6	3.07	0.17
NOT STATED	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SCHOOL																					
YES	71	21	18	6	12	9	-	3	2	2.68	71	-	1	29	31	9	1	-	-	2.72	0.04
NO	31	7	4	3	11	2	2	2	-	2.35	31	-	-	9	16	5	1	-	-	2.94	0.59

DISTRICT : DHANUSA

EDUCATION	NO. OF CURRENTLY LIVING CHILDREN										DESIRED NO. OF CHILDREN										
	TOTAL	0	1	2	3	4	5	6	7+	MEAN	TOTAL	0	1	2	3	4	5	6	7	MEAN	DIFFERENCE
READ & WRITE																					
NO	1,354	238	250	260	259	193	90	44	20	2.35	1,335	8	14	119	767	344	66	10	7	3.27	0.92
NOT STATED	1	-	-	-	-	-	1	-	-	5.00	1	-	-	-	1	-	-	-	-	3.00	2.00
SCHOOL																					
YES	65	12	13	6	15	9	7	3	-	2.45	64	-	3	12	38	8	2	1	-	2.95	0.50
NO	12	-	2	2	6	2	-	-	-	2.67	12	-	-	3	7	2	-	-	-	2.92	0.25

Table 15 : Desired Number of Children (Sons and Daughters) by Number of Living Children

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

NO. OF CURRENTLY CHILDREN	DESIRED NO. OF CHILDREN 0	1	2	3	4	5	6	7	DESIRED NO. OF SONS 0	1	2	3	4	5	6	7	DESIRED NO. OF DAUGHTERS 0	1	2	3	4	5	6	7
0	2	4	69	82	38	9	1	–	2	67	124	10	2	–	–	1	11	142	49	2	1	–	–	1
1	1	6	67	100	32	2	2	–	3	71	132	4	3	–	–	–	13	163	34	2	1	–	–	–
2	1	1	94	95	36	3	2	–	–	71	158	4	1	–	–	–	31	152	49	2	–	–	–	–
3	1	2	42	149	41	6	2	1	1	51	171	17	3	1	–	–	18	164	58	3	–	1	–	–
4	1	1	54	44	75	4	6	–	–	56	108	21	–	–	–	–	6	102	66	11	–	–	–	–
5	–	1	38	44	39	17	–	2	–	34	94	8	4	1	–	1	12	74	44	9	1	–	–	2
6	–	–	13	34	22	4	7	1	1	13	56	9	2	–	–	–	–	46	25	6	2	1	–	–
7+	–	–	15	21	33	3	2	2	–	15	52	7	–	1	1	–	1	37	36	2	–	–	–	–
SONS 0	3	5	125	166	74	11	2	–	3	132	235	14	4	–	–	1	17	271	95	3	2	–	–	1
1	2	8	115	154	75	8	6	2	3	126	231	12	1	1	–	–	22	244	93	11	1	2	–	1
2	–	2	89	161	73	14	4	1	–	61	271	8	3	1	–	–	34	216	82	11	1	–	–	–
3	1	–	49	55	62	7	7	1	–	43	98	38	2	–	–	1	17	101	54	8	1	–	–	1
4	–	–	7	20	20	6	2	–	–	8	39	4	4	–	–	–	2	27	23	3	–	–	–	–
5	–	–	4	8	8	2	–	1	1	5	13	2	1	1	–	–	–	11	11	–	–	–	–	–
6	–	–	1	3	3	–	1	1	–	1	5	2	–	–	1	–	–	6	2	1	–	–	–	–
7+	–	–	2	2	1	–	–	–	–	2	3	–	–	–	–	–	–	4	1	–	–	–	–	–
DAUGHTERS 0	4	9	153	180	75	14	3	–	5	121	281	28	5	–	–	1	62	284	88	5	1	–	–	1
1	1	1	115	203	75	8	6	1	1	114	266	20	8	–	1	–	8	325	70	7	1	–	–	–
2	–	4	54	96	91	10	4	3	–	80	164	14	2	2	–	1	8	124	125	4	–	1	–	1
3	–	–	37	61	41	12	7	1	1	33	112	12	–	1	–	–	8	87	43	20	1	–	–	–
4	1	1	22	18	24	3	1	–	–	19	48	4	–	–	–	–	6	38	24	–	2	–	–	1
5	–	–	7	9	5	1	1	1	–	7	15	2	–	–	–	–	–	16	6	1	–	1	–	–
6	–	–	4	2	3	–	–	–	–	4	5	–	–	–	–	–	–	6	3	–	–	–	–	–
7+	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–

DISTRICT : DHANUSA

NO. OF CURRENTLY CHILDREN	DESIRED NO. OF CHILDREN 0	1	2	3	4	5	6	7	DESIRED NO. OF SONS 0	1	2	3	4	5	6	7	DESIRED NO. OF DAUGHTERS 0	1	2	3	4	5	6	7
0	8	1	25	150	55	6	–	1	10	23	179	30	3	–	–	2	17	195	33	–	1	–	–	2
1	1	9	24	183	35	8	2	1	3	27	201	24	5	2	1	–	13	224	22	4	–	–	–	–
2	–	3	53	131	60	12	2	3	–	43	182	28	7	3	–	2	18	188	53	–	4	–	–	2
3	–	2	11	195	56	7	1	1	1	16	220	35	2	1	–	1	14	207	49	4	1	–	–	1
4	1	2	12	79	104	5	2	–	–	15	140	42	7	1	–	–	4	125	70	5	–	1	–	–
5	1	–	6	43	21	23	1	–	–	7	61	19	6	2	1	–	1	59	30	5	1	–	–	–
6	–	–	2	20	17	5	3	–	–	2	33	11	1	–	–	–	–	27	17	2	1	–	–	–
7+	–	–	–	10	7	2	–	1	–	–	13	4	3	–	–	–	–	15	4	1	–	–	–	–
SONS 0	9	5	45	276	96	11	2	1	13	44	334	48	5	–	–	3	20	349	70	5	1	–	–	3
1	–	8	48	261	91	20	4	3	1	61	317	42	10	3	1	2	16	329	78	6	6	–	–	2
2	–	2	28	195	97	15	3	2	–	16	289	28	5	5	–	–	18	228	91	5	1	–	–	–
3	2	1	4	62	52	12	1	–	–	4	67	58	4	1	–	–	11	96	25	2	–	–	–	–
4	–	1	6	11	14	9	1	–	–	6	15	12	9	–	1	–	2	26	12	2	–	1	–	–
5	–	–	2	3	5	1	–	1	–	2	4	5	1	–	–	–	–	9	2	1	–	–	–	–
6	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–
7+	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
DAUGHTERS 0	8	8	62	316	104	19	2	3	10	49	369	75	13	4	1	2	57	399	61	3	1	1	–	2
1	2	8	49	284	98	14	1	3	3	50	326	66	12	2	1	1	6	395	51	4	4	–	–	1
2	1	1	13	115	102	19	4	1	1	22	196	31	5	2	–	2	2	129	121	4	1	–	–	2
3	–	–	7	63	33	11	2	–	–	9	90	15	1	1	–	–	2	76	31	7	–	–	–	–
4	–	–	1	23	11	5	2	–	–	2	34	3	3	–	–	–	–	27	10	3	2	–	–	–
5	–	–	–	6	5	–	–	–	–	–	8	3	–	–	–	–	–	9	2	–	–	–	–	–
6	–	–	1	1	1	–	–	–	–	1	2	–	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–
7+	–	–	–	3	1	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	3	1	–	–	–	–	–

Table 16: Additional Number of Children Desired (Sons and Daughters) by Number of Living Children (Sons and Daughters)

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

NO. OF ADDITIONAL CHILDREN	NO. OF CURRENTLY CHILDREN								NO. OF CURRENTLY SONS								NO. OF CURRENTLY DAUGHTERS							
	0	1	2	3	4	5	6	7+	0	1	2	3	4	5	6	7+	0	1	2	3	4	5	6	7+
0	21	38	120	180	148	132	79	73	41	194	301	166	53	23	9	4	135	260	186	124	56	20	8	2
1	5	47	59	46	23	9	2	2	64	93	21	12	2	–	–	1	54	58	43	23	10	4	1	–
2	69	80	41	11	10	2	–	1	141	59	10	4	–	–	–	–	113	61	25	9	5	1	–	–
3	63	32	7	2	1	–	–	–	85	13	7	–	–	–	–	–	80	22	2	1	–	–	–	–
4	36	10	4	2	2	–	–	–	42	10	2	–	–	–	–	–	43	6	4	1	–	–	–	–
5	8	3	–	2	–	–	–	–	10	2	1	–	–	–	–	–	9	3	1	–	–	–	–	–
6	1	1	1	–	–	–	–	–	1	1	1	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–
7	2	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–
SONS 0	19	46	130	194	151	132	79	75	40	202	315	179	54	23	9	4	162	266	186	125	56	21	8	2
1	61	69	60	34	21	9	2	1	128	117	8	2	1	–	–	1	105	71	43	23	10	4	1	–
2	107	70	38	13	10	2	–	–	193	32	14	1	–	–	–	–	134	61	29	11	5	–	–	–
3	8	4	–	1	–	–	–	–	10	3	–	–	–	–	–	–	11	1	1	–	–	–	–	–
4	1	4	–	–	–	–	–	–	4	1	–	–	–	–	–	–	2	3	–	–	–	–	–	–
5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
6	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
7	7	20	4	1	3	–	–	–	11	18	6	–	–	–	–	–	24	8	3	–	–	–	–	–
DAUGHTERS 0	34	97	192	220	175	143	81	74	168	278	311	169	54	23	9	4	165	340	249	156	70	25	9	1
1	116	82	30	17	3	–	–	2	153	62	21	12	1	–	–	1	191	54	3	2	–	–	–	–
2	44	11	5	3	3	–	–	–	50	13	3	–	–	–	–	–	53	6	5	1	1	–	–	–
3	2	1	–	1	1	–	–	–	2	1	1	1	–	–	–	–	3	2	–	–	–	–	–	–
4	–	1	1	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–
5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
7	7	20	5	2	3	–	–	–	12	19	6	–	–	–	–	–	24	8	5	–	–	–	–	–

DISTRICT : DHANUSA

NO. OF ADDITIONAL CHILDREN	NO. OF CURRENTLY CHILDREN								NO. OF CURRENTLY SONS								NO. OF CURRENTLY DAUGHTERS							
	0	1	2	3	4	5	6	7+	0	1	2	3	4	5	6	7+	0	1	2	3	4	5	6	7+
0	31	36	105	196	170	92	41	19	54	157	293	131	42	10	3	–	155	249	171	70	32	9	3	1
1	5	11	57	40	20	2	5	1	22	89	25	2	1	2	–	–	25	54	33	22	4	1	–	2
2	30	124	67	26	9	2	1	–	132	113	14	–	–	–	–	–	104	94	36	18	5	1	–	1
3	127	67	21	4	1	1	–	–	166	47	7	–	1	–	–	–	169	40	11	1	–	–	–	–
4	42	16	9	7	2	–	–	–	55	15	3	3	–	–	–	–	53	15	6	2	–	–	–	–
5	8	2	–	2	–	–	–	–	9	3	–	–	–	–	–	–	10	–	1	1	–	–	–	–
6	–	1	1	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–
7	2	2	2	1	–	–	–	–	2	4	1	–	–	–	–	–	4	3	–	–	–	–	–	–
SONS 0	26	38	116	198	169	92	40	17	50	162	302	130	40	9	3	–	159	252	171	70	31	9	3	1
1	24	64	56	35	18	1	3	1	52	134	14	1	–	1	–	–	81	62	33	20	3	1	–	2
2	144	117	64	30	9	3	–	–	269	82	15	–	1	–	–	–	194	106	42	20	5	–	–	–
3	26	12	3	3	3	–	–	–	33	7	3	3	1	–	–	–	36	9	2	–	–	–	–	–
4	2	3	1	1	–	–	–	–	3	3	–	1	–	–	–	–	5	2	–	–	–	–	–	–
5	–	2	–	1	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	–
6	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
7	23	26	27	10	4	2	3	2	37	47	9	1	1	2	–	–	46	28	13	5	3	1	–	1
DAUGHTERS 0	37	100	186	249	192	94	43	18	162	266	309	131	38	10	3	–	176	354	230	105	38	10	3	–
1	161	127	39	8	1	1	–	–	206	107	20	3	1	–	–	–	269	61	6	1	–	–	–	–
2	23	7	11	6	4	–	–	–	35	11	4	–	1	–	–	–	27	11	10	3	–	–	–	–
3	2	2	2	3	2	1	–	1	5	4	–	2	2	–	–	–	5	4	1	1	2	–	–	–
4	–	–	1	2	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–
5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
7	23	26	28	10	4	2	3	1	37	47	10	–	1	2	–	–	47	28	13	5	2	1	–	–

Table 17 : Distribution of Respondents Who Had Ever Been Pregnant by Place They Went for Check-up and Whether or Not They Were Satisfied with the Check-up

PANCHAYAT CODE & SATISFACTION	INAPPLI-CABLE (0)	HOSPITAL (1)	HEALTH POST (2)	T.B.A. (3)	OTHERS (4)	TOTAL (1~4)
		CHECK UP PLAN				
1 ~ 3						
A	354	–	–	–	–	–
B	–	19	4	–	1	24
C	–	4	–	–	–	4
4 ~ 5						
A	243	1	3	–	–	4
B	–	7	1	–	2	10
C	–	1	–	–	–	1
6 ~ 8						
A	391	–	2	–	1	3
B	–	30	1	1	3	35
C	1	2	2	–	–	4
9 ~ 10						
A	276	–	–	–	–	–
B	–	18	–	1	1	20
C	–	1	–	–	1	2
SUB-TOTAL						
A	1,264	1	5	–	1	7
B	–	74	6	2	7	89
C	1	8	2	–	1	11
11~13						
A	368	–	–	–	–	–
B	–	9	1	–	2	12
C	–	1	–	–	–	1
14~15						
A	284	4	3	–	–	7
B	–	7	–	–	8	15
C	–	2	1	–	–	3
16~18						
A	426	–	7	–	–	7
B	1	6	5	–	9	20
C	–	1	1	1	–	3
19~20						
A	259	–	1	–	–	1
B	–	7	3	–	4	14
C	1	5	–	–	2	7
SUB-TOTAL						
A	1,337	4	11	–	–	15
B	1	29	9	–	23	61
C	1	9	2	1	2	14
TOTAL						
A	2,601	5	16	–	1	22
B	1	103	15	2	30	150
C	2	17	4	1	3	25

1 – 3 : Bhumlutar
4 – 5 : Dapcha
6 – 8 : Khopasi
9 – 10 : Nala
11 – 13 : Godar
14 – 15 : Godhaghas
16 – 18 : Sabaila
19 – 20 : Tarapatti

A : Inapplicable
B : Yes
C : No

Table 18 : Distribution of Respondents by Place of Delivery of Last Child

PANCHAYAT CODE	THE PLACE OF DELIVERY OF LAST CHILD				
	TOTAL	HOSPITAL	HEALTH POST	HOME	OTHERS
1 ~ 3	337	17	1	319	–
4 ~ 5	223	8	2	213	–
6 ~ 8	369	14	4	351	–
9 ~ 10	261	9	1	251	–
SUB-TOTAL	1,190	48	8	1,134	–
11 ~ 13	336	4	–	331	1
14 ~ 15	262	8	1	252	1
16 ~ 18	389	12	2	374	1
19 ~ 20	241	12	3	226	–
SUB-TOTAL	1,228	36	6	1,183	3
TOTAL	2,418	84	14	2,317	3

1 – 3 : Bhumlutar
4 – 5 : Dapcha
6 – 8 : Khopasi
9 – 10 : Nala
11 – 13 : Goodar
14 – 15 : Godhaghas
16 – 18 : Sabaila
19 – 20 : Tarapatti

Table 19 : Distribution of Respondents by Reasons for Having Check-up

PANCHAYAT CODE	THE REASON TO GO			
	TOTAL	A	B	C
1 ~ 3	28	10	16	2
4 ~ 5	13	7	6	–
6 ~ 8	41	17	21	3
9 ~ 10	23	12	7	4
SUB-TOTAL	105	46	50	9
11 ~ 13	14	9	2	3
14 ~ 15	23	14	8	1
16 ~ 18	23	11	10	2
19 ~ 20	21	10	11	–
SUB-TOTAL	81	44	31	6
TOTAL	186	90	81	15

1 – 3 : Bhumlutar
4 – 5 : Dapcha
6 – 8 : Khopasi
9 – 10 : Nala
11 – 13 : Godar
14 – 15 : Godhaghas
16 – 18 : Sabaila
19 – 20 : Tarapatti

A : Regular Check-up
B : Due to Complication
C : Regular Check-up and Complication

Table 20 : Distribution of Respondents by Types of Check-up Done (Multiple Answer)

PANCHAYAT CODE	TOTAL	Type of Check-up A	B	C	D	E	F
1 ~ 3	84	16	18	18	13	16	3
4 ~ 5	45	10	11	9	11	2	2
6 ~ 8	110	21	26	24	21	11	7
9 ~ 10	62	12	11	10	16	9	4
SUB-TOTAL	301	59	66	61	61	38	16
11 ~ 13	42	7	10	9	10	6	–
14 ~ 15	44	5	11	7	7	9	5
16 ~ 18	58	7	10	9	16	9	7
19 ~ 20	42	4	8	7	9	12	2
SUB-TOTAL	186	23	39	32	42	36	14
TOTAL	487	82	105	93	103	74	30

1 – 3 : Bhumlutar
4 – 5 : Dapcha
6 – 8 : Khopasi
9 – 10 : Nala
11 – 13 : Godar
14 – 15 : Godhaghas
16 – 18 : Sabaila
19 – 20 : Tarapatti

A : Weighted
B : Blood Pressure
C : Urine Exam.
D : Chest
E : Use of Stethoscope
F : Others

Table 21 : Distribution of Respondents by Type of Persons Who Advised for Medical Check-up During Pregnancy

PANCHAYAT CODE	TOTAL	Advisor: HEALTH WORKER	SPOUSE	FAMILY MEMBER	FRIEND	RADIO	NEWS-PAPER	MOTHER'S CLUB	OTHERS
1 ~ 3	29	2	2	18	4	–	–	–	3
4 ~ 5	12	–	3	5	3	–	–	–	1
6 ~ 8	40	2	4	26	3	–	–	–	5
9 ~ 10	22	1	4	16	–	–	–	–	1
SUB-TOTAL	103	5	13	65	10	–	–	–	10
11 ~ 13	13	4	1	7	1	–	–	–	–
14 ~ 15	18	1	4	12	–	–	–	–	1
16 ~ 18	24	1	3	19	–	–	–	–	1
19 ~ 20	21	–	2	15	1	–	–	–	3
SUB-TOTAL	76	6	10	53	2	–	–	–	5
TOTAL	179	11	23	118	12	–	–	–	15

1 – 3 : Bhumlutar
4 – 5 : Dapcha
6 – 8 : Khopasi
9 – 10 : Nala
11 – 13 : Godar
14 – 15 : Godhaghas
16 – 18 : Sabaila
19 – 20 : Tarapatti

Table 22 : Distribution of Respondents by Type of Persons Who Assisted at the Time of Last Delivery

TYPE OF PERSON	DISTRICT KAVREPALANCHOK	DISTRICT DHANUSA
DOCTOR/ NURSE	7	24
T.B.A.	71	1026
FAMILY MEMBER	717	69
NEIGHBORS	145	21
OTHERS	24	1

Table 23 : Distribution of Respondents by Whether or Not They had Post-Natal Check-up for the Last Child

CHECK-UP	DISTRICT KAVREPALANCHOK	DISTRICT DHANUSA
YES	46	30
No	1151	1188

Table 24 : Distribution of Respondents (Who Had Post-natal Check-up after the Last Delivery) by Whether or Not They Were Satisfied with the Check-up

SATISFACTION	DISTRICT KAVREPALANCHOK	DISTRICT DHANUSA
YES	40	23
No	7	9

Table 25 : Distribution of Respondents by Knowledge of Family Planning, Different Methods of Contraceptive and At Least One Modern Method of Contraceptive by 5 Year Age Group

DISTRICT : KAVREPALANCHOK

	KNOWLEDGE FOR FAMILY PLANNING									
AGE	FAMILY PLANNING	PILL	CONDOM	IUD	DEPO	MALE STERIL.	FEMALE STERIL.	TRAD. METHOD	OTHERS	AT LEAST ONE
~14	2	1	–	1	1	2	2	1	–	2
15 ~ 19	99	83	38	39	56	83	84	2	–	94
20 ~ 24	242	197	77	81	142	206	213	8	2	234
25 ~ 29	251	209	79	87	155	223	226	8	–	245
30 ~ 34	202	162	74	74	124	176	171	8	4	195
35 ~ 39	176	146	52	58	94	158	153	5	3	175
40 ~ 44	154	131	46	51	74	139	130	5	3	154
45 ~ 49	67	55	20	23	37	59	58	2	1	67
50+	2	2	1	–	2	2	2	–	–	2
NOT STATED	3	2	–	–	1	3	3	–	–	3
TOTAL	1,198	988	387	414	686	1,051	1,042	39	13	1,171

DISTRICT : DHANUSA

	KNOWLEDGE FOR FAMILY PLANNING									
AGE	FAMILY PLANNING	PILL	CONDOM	IUD	DEPO	MALE STERIL.	FEMALE STERIL.	TRAD. METHOD	OTHERS	AT LEAST ONE
~14	1	–	–	–	–	1	1	–	–	1
15 ~ 19	115	60	38	11	39	95	111	4	–	113
20 ~ 24	261	145	82	31	107	232	260	4	1	260
25 ~ 29	282	163	79	27	106	255	281	6	2	285
30 ~ 34	268	179	78	20	107	247	268	8	–	269
35 ~ 39	183	91	41	15	59	156	182	1	–	182
40 ~ 44	129	71	27	8	56	117	125	7	–	126
45 ~ 49	90	43	20	7	35	84	91	2	1	91
50+	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
NOT STATED	2	–	–	–	–	1	2	–	–	2
TOTAL	1,331	752	365	119	509	1,188	1,321	32	4	1,329